

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成30年度事業)

令和元年11月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価に対する事務の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
4	評価結果の取扱い	
II	山元町教育振興基本計画	
1	基本方針	2
2	計画の目標	2
3	基本方向と基本施策	2
	基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成	2
	基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成	3
	基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり	3
	基本方向4 家庭・地域・学校が協働して 子どもを育てる環境づくり	3
	基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進	4
	基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	4
	基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚	4
III	点検及び評価の結果	
1	教育委員会の活動	4
2	教育関係経費決算の状況	7
3	学校教育の充実	8
4	生涯学習の充実	15
5	点検評価表（山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表）	25
IV	学識経験者の意見書	70
V	参考法令	75

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価に対する事務の対象

「山元町教育振興基本計画（アクションプラン）」に定める施策に関する事務事業のうち、平成30年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業等（昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業）その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、対象事業ごとに必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。平成30年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、結果を取りまとめた報告書については、山元町議会に提出するとともに、公表するものとします。

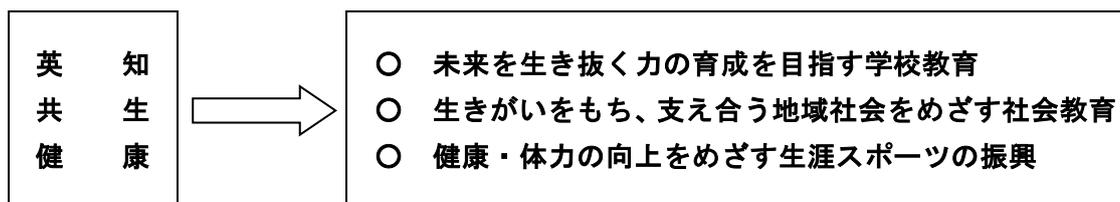
4 評価結果の取扱い

この点検評価結果については、評価の高い事業については、引き続き実施し評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

Ⅱ 山元町教育振興基本計画（平成 29 年度～平成 33 年度）

1 基本方針

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに町民の生涯にわたる学習の充実を努める。



2 計画の目標

本町教育が5年間で目指す姿の実現に向けて、具体的には、4つを「計画の目標」として取り組みます。

- 目標 1 夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 目標 2 家庭・地域・学校の教育力の充実と連携の強化を図り、山元の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。
- 目標 3 次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育むとともに他の文化の理解を深める。
- 目標 4 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

3 基本方向と基本施策

本計画では、目指す姿の実現を目指し、4つの計画目標のもと、7つの基本方向及び基本施策に取り組みます。

基本方向 1 学ぶ力と自立する力の育成

(1) 「志教育」の推進

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的事項③**

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 開かれた学校づくりの推進

(2) 学習環境の整備充実 **重点的事項⑤**

(3) 教職員を支える環境づくりの推進

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑥**

(3) 子どもたちの体験活動の推進 **重点的事項⑦**

- (4) 家庭教育の充実

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

- (1) 伝統・文化の尊重
- (2) 国際理解を育む教育 **重点的事項⑧**

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

- (1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進
- (2) 文化財の保護と活用
- (3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑨**

基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚

- (1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑩**
- (2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加
- (3) 震災遺構の活用

Ⅲ 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動について

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。

平成28年10月1日からは、一部改正後の地教行法の規程に基づき、委員長と教育長を一本化した新教育長が任命され、事務を執行しています。(新制度)

教育委員会の会議は、毎月定例会を開催し(必要に応じて臨時会を開催します。)、各種議案の審議などを行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

(1) 教育委員会委員

①平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～令和元年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～令和2年3月31日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成31年3月31日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～令和4年3月31日
委員	菅野正彦	平成29年7月1日～令和3年3月31日

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回定例会	平成30年4月26日	①山元町社会教育委員の委嘱（補充）について ②山元町東日本大震災遺構保存条例について
第2回定例会	平成30年5月24日	①山元町奨学金貸与選考委員会委員の委嘱について ②山元町障害児就学指導審議会委員の委嘱について ③山元町立学校給食運営審議会委員の委嘱について ④山元町社会教育指導員の委嘱について ⑤山元町地域学校協働コーディネーターの委嘱について ⑥職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて
第3回定例会	平成30年6月25日	①山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会設置要綱について
第4回定例会	平成30年7月25日	①平成31年度使用教科用図書採択の承認について ②平成30年度教育功績者表彰候補者について ③山元町指定文化財茶室整備・活用検討委員会の委員委嘱について
第5回定例会	平成30年8月23日	①山元町学校給食運営審議会委員の委嘱について
第6回定例会	平成30年9月25日	①山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会の委員委嘱について ②町職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて ③県費負担教職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて
第7回定例会	平成30年10月25日	①山元町教育委員会公印規程の一部を改正する訓令について ②山元町教育委員会処務規程の一部を改正する

		訓令について ③山元町町民運動場管理規則の一部を改正する規則について
第8回定例会	平成30年11月26日	①山元町立中学校部活動の方針について ②山元町教育委員会に関する点検評価報告書について ③職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて
第9回定例会	平成30年12月25日	①小・中学校再編方針について ②山元町児童生徒就学援助実施要綱の一部を改正する告示について ③職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて
第10回定例会	平成31年1月25日	・報告案件のみ
第11回定例会	平成31年2月14日	①平成30年度第1回いじめ問題対策連絡協議会について ②平成31年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ③県費負担教員の人事について ④山元町障害児就学指導審議会条例の一部を改正する条例について ⑤山元町児童生徒就学援助実施要綱の一部を改正する告示について
第12回定例会	平成31年3月25日	①平成31年度山元町教育基本方針(案)について ②山元町教育相談員の委嘱について ③山元町スポーツ推進委員の委嘱について ④山元町社会教育委員の委嘱について ⑤山元町社会教育指導員の委嘱について ⑥山元町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について ⑦山元町小・中学校再編検討委員会設置要綱等の一部を改正する告示について ⑧山元町教育委員会処務規程等の一部を改正する訓令について ⑨山元町立中学校再編準備委員会設置要綱について ⑩山元町子どもの心のケアハウス事業実施要綱について ⑪山元町立小・中学校給食費補助規則について ⑫山元町特別支援連携協議会設置要綱について

		⑬山元町社会教育委員会議規則の一部を改正する規則について ⑭山元町スポーツ全国大会等出場賞賜金交付要綱の一部を改正する告示について ⑮山元町スポーツ団体事業費補助金交付要綱について
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 臨時会の開催について

区 分	期 日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回臨時会	平成30年7月11日	①平成31年度使用教科用図書採択計画書について
第2回臨時会	平成30年10月18日	①山元町小・中学校再編検討報告書について
第3回臨時会	平成31年3月19日	①一般職員の人事について ②職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて

(4) 山元町総合教育会議の開催について

期 日	会 場	主 な 議 題 等	出席者
平成30年5月24日	勤労青少年ホーム講義室	1 「教育等の振興に関する施策の大綱(案)」について 2 山元町内小・中学校の再編検討について 3 震災遺構の進捗等について	町長、教育長、教育委員4名
平成30年10月25日	勤労青少年ホーム講義室	1 小・中学校再編について 2 レクリエーション施設（パークゴルフ場）の今後の取り組みについて	町長、教育長、教育委員4名
平成30年12月25日	勤労青少年ホーム講義室	1 小・中学校再編方針に係る住民説明会の結果等について 2 小・中学校再編方針(案)について 3 学校再編に係る今後のスケジュール等について	町長、教育長、教育委員3名

一部改正された地教行法の規程に基づき策定した山元町総合教育会議運営要綱の規程に基づき、町長と教育委員で構成された総合教育会議が5月と10月に開催されました。

また、小・中学校再編に係る協議・調整を行うため、12月にも開催されました。

(5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
平成 30 年 6 月 25 日	山下第一小学校 山下小学校	山下第一小学校（給食試食）、山下小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 30 年 8 月 23 日	震災遺構 坂元地域交流センター 茶室 体育文化センター	・現場説明・意見交換等
平成 30 年 9 月 25 日	坂元中学校 山下中学校	坂元中学校（給食試食）、山下中学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 30 年 11 月 26 日	山下第二小学校 坂元小学校	山下第二小学校（給食試食）、坂元小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 31 年 1 月 25 日	歴史民俗資料館 ふるさと伝承館 埋蔵文化財整理室 深山山麓少年の森	・現場説明・意見交換等

2 教育関係経費決算の状況

平成 30 年度決算額は、教育費 6 億 3, 397 万 1 千円、前年度比 31.5 パーセントの減少でした。

主な減少理由としては、坂元小学校校庭改良工事費、防災拠点・坂元地域交流センター建設費が皆減したものです。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	86,931	13.7	72,933	7.9	13,998	19.2
小学校費	101,446	16.0	151,692	16.4	△50,246	△33.1
中学校費	131,601	20.7	130,483	14.1	1,118	0.9
幼稚園費	15,720	2.5	13,860	1.5	1,860	13.4
社会教育費	247,176	39.0	530,506	57.4	△283,330	△53.4
保健体育費	51,097	8.1	25,537	2.7	25,560	100.1
教育費 計	633,971	100.0	925,011	100.0	△291,040	△31.5

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	180,787	28.5	186,827	20.2	△6,040	△3.2
物件費	317,640	50.1	252,264	27.3	65,376	25.9
維持補修費	7,270	1.1	58,917	6.4	△51,647	△87.7
扶助費	28,961	4.6	25,264	2.7	3,697	14.6
補助費等	34,170	5.4	28,018	3.0	6,152	22.0
普通建設事業費	61,462	9.7	370,443	40.0	△308,981	△83.4
積立金	3,321	0.5	2,438	0.3	883	36.2
貸付金	360	0.1	840	0.1	△480	△57.1
教育費 計	633,971	100.0	925,011	100.0	△291,040	△31.5

3 学校教育の充実

(1) 小・中学校児童生徒数等について(5月1日現在)

平成30年度児童生徒数は、732人で前年度より18人の減少でした。

○小学校

	平成30年度		平成29年度		増 減	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
1年生	4	71	4	64	0	7
2年生	4	63	4	67	0	△4
3年生	4	68	4	66	0	2
4年生	4	67	4	88	0	△21
5年生	4	85	4	94	0	△9
6年生	4	94	4	68	0	26
特別支援	7	12	5	9	2	3
計	31	460	29	456	2	4

○中学校

	平成30年度		平成29年度		増 減	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年生	3	69	3	85	0	△16
2年生	3	86	4	112	△1	△26
3年生	4	112	3	92	1	20
特別支援	3	5	3	5	0	0
計	13	272	13	294	0	△22

(2) 就学援助事業

経済的理由によって就学困難な生徒の保護者や震災により被災した児童生徒の保護者に対し、学校用品費等の援助を行うとともに、心身に障害のある生徒の保護者に対する援助を実施し、就学の奨励を図ったものです。

また、平成30年度から、次年度入学者への新入学学用品費について、入学前に支給する前倒し支給を実施した。

○要保護・準要保護就学援助事業

(単位：円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	39	401,586	33	669,600
新入学学用品費 (うち前倒し支給)	12 (5)	537,200 (253,000)	18 (10)	953,200 (574,000)
通学用品費	32	64,650	24	50,170
校外活動費(宿泊有り)	3	10,860	7	42,700
校外活動費(宿泊無し)	21	22,558	0	0
修学旅行費	11	203,606	11	585,471
給食費	38	1,669,390	32	1,602,477
医療券	1	4,530	2	15,116
計	39	2,914,380	33	3,918,734

○特別支援教育就学奨励事業

(単位：円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	5	28,550	1	11,160
新入学学用品	1	20,300	1	23,700
校外活動等参加費	5	5,581	0	0
修学旅行費	0	0	0	0
給食費	5	122,459	0	0
計	5	176,890	1	34,860

○被災児童就学奨励事業

(単位：円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	127	1,445,577	91	2,021,820
新入学学用品費 (うち前倒し支給)	31 (12)	1,378,600 (607,200)	33 (10)	1,664,200 (574,000)
通学用品費	108	239,905	67	149,410
修学旅行費	24	472,452	39	2,030,489

校外活動費(宿泊有り)	33	116,484	23	136,900
校外活動費(宿泊無し)	103	89,462	0	0
給食費	127	6,125,730	91	5,014,820
医療費	17	83,200	2	5,640
計	127	9,951,410	91	11,023,279

(3) 小・中学校再編検討について

山元町小・中学校の児童及び生徒にとってよりよい学びができる環境をつくる観点から、小・中学校の再編等について総合的な検討を行うため、平成29年11月に保護者代表、地域住民代表、学校関係者、学識経験者を委員とした、再編検討委員会を設置し、引き続き平成30年度では、8回の検討委員会の開催や住民説明会を実施し、検討委員会の最終方向性として、小・中学校再編検討報告書をまとめ、教育委員会へ提出しております。

教育委員会では、再編検討委員会からの小・中学校再編検討報告書を受け、その内容について協議を行い、報告書に示された方向性を尊重し、小学校は「10年後を目途に1学校区」、中学校は「2021年4月を目途に現山下中学校を活用し1学校区」との再編方針を決定しました。

○検討委員会等開催の概要

期日	委員会等	概要
平成30年4月19日(木)	第7回町小・中学校再編検討委員会	行政区別児童・生徒数の推移、小中学校施設規模、経過年数等の確認、再編の方向性検討・意見交換
平成30年5月23日(水)	第8回町小・中学校再編検討委員会	小中学校再編パターンの検討、学校施設の老朽化、維持管理費の把握、山元町将来人口の推移再確認
平成30年6月13日(水)	第9回町小・中学校再編検討委員会	小学校再編の方向性について
平成30年6月28日(木)	第10回町小・中学校再編検討委員会	小学校再編の方向性について、方向性の確認
平成30年7月11日(水)	第11回町小・中学校再編検討委員会	小・中学校再編に向けた検討報告の概要(案)について
平成30年8月3日(金) ～ 平成30年8月5日(日)	住民説明会	小学校区別4回、全体1回の計5回
平成30年9月11日(火)	第12回町小・中学校再編検討委員会	住民説明会等の結果を踏まえた学校再編の方向性の再確認について、山元町小・中学校再編検討報告書について
平成30年9月27日(木)	第13回町小・中学校再編検討委員会	山元町小・中学校再編検討報告書について
平成30年10月11日(木)	第14回町小・中学校再編検討委員会	山元町小・中学校再編検討報告書について

○学校再編に係る教育委員会方針決定までの概要

期日	委員会等	概要
平成30年10月18日(木)	第2回教育委員会臨時会	山元町小・中学校再編検討報告書について
平成30年10月25日(木)	第2回総合教育会議	小・中学校再編について
平成30年10月25日(木)	第7回教育委員会定例会	山元町小・中学校再編方針(案)について
平成30年11月26日(火)	第8回教育委員会定例会	山元町小・中学校再編方針(案)に係る住民説明会資料について
平成30年12月2日(日)	住民説明会	坂元学区、山下学区毎開催
平成30年12月25日(火)	第3回総合教育会議	小・中学校再編方針に係る住民説明会の結果等について、小・中学校再編方針(案)について、学校再編に係る今後のスケジュール等について
平成30年12月25日(火)	第9回教育委員会定例会	小・中学校再編方針について

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携その他いじめの防止等のための対策を推進するために必要な事項に関し、連絡及び協議を行うため、協議会を開催しました。

なお、平成30年度における山元町のいじめの認知件数等は以下のとおりです。

○いじめ問題対策連絡協議会開催の概要

期日	会場	主な議題等
平成31年1月30日	勤労青少年ホーム 講義室	1 平成29・30年度いじめ認知状況について 2 いじめ防止対策について

○山元町のいじめの認知件数

(平成31年3月31日現在)

学校名	学年						計	状況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解消
坂元小学校						1	1		1
山下小学校						2	2	2	
山下第一小学校			1				1		1
山下第二小学校									
坂元中学校		1					1	1	
山下中学校		1					1		1
計		2	1			3	6	3	3

(3) 学力向上に向けた教育講演会の開催について

児童生徒の学力向上のため、小中学校の教員を対象とした、指導力向上研修会を、8月2日、こころの相談室研究所 所長 望月晃二様から、「保護者とのトラブルを回避するいじめ対応を考える～トラブルに発展する事例より～」と題し、実例に基づいた保護者対応等についての講演をいただき、教職員約80人が参加しました。

また、同日、山下中学校 滝深 潔教諭から「各教科等のねらいに即した実践する小学校プログラミング教育について」と題し、教育講演会を開催し、プログラミング教育の手法等について講演をいただきました。

(4) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様で豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食回数

小学校 172回～179回 中学校 177回～178回

※学校行事等の持ち方によって学校ごとに回数が異なります。

② 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

③ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等

保護者負担 小学校 278円（児童1人 1食あたりの食材費）

中学校 319円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度より小学校は8円、中学校は9円増額しました。平成30年度は据え置きです。

④ 給食調理・給食運搬業務委託事業

・給食調理業務委託事業の委託先は、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社仙台営業所で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年7月31日で、坂元中学校給食室で調理業務を実施しています。

・給食運搬業務委託事業の委託先は、社会福祉法人山元町社会福祉協議会で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日で、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、坂元中学校から坂元小学校へ、及び山下中学校から山下第一小学校及び山下第二小学校です。

⑤ 給食調理等職員数

調理場	栄養士	栄養教諭	臨時栄養士	給食従事員 (含む臨時職員)	計	備考
坂元中学校		1名		業務委託 5名	6名	
山下中学校		1名	1名	8名	10名	

⑥ 特色ある事業

保健福祉課と産業振興課との共同で郷土料理（はらこめしづくり）体験事業を小学校5年生を対象に全小学校で実施しています。

山下第一小学校	平成30年11月7日 9名	山下第二小学校	平成30年11月6日 19名
山下小学校	平成30年11月1日 38名	坂元小学校	平成30年11月8日 18名

・実施に当たっては、宮城県漁業協同組合山元支部と山元町食生活改善推進員協議会から食材の提供や調理等の指導の協力をいただいています。

⑦ 食材の放射性物質検査について

食品放射能測定システムによるセシウム 134・137 の検査を実施

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査を実施、平成30年度は、延べ83日検査を実施し、検査結果は、いずれも厚生労働省が示す放射性セシウムの新基準値を下回るか不検出でした。

⑧ 山元町立学校給食運営審議会の開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
平成31年3月13日	中央公民館 会議室	1 平成30年度学校給食運営について 2 平成31年度学校給食運営について	

(5) 主な施設整備の状況について

① 小・中学校エアコン整備事業

山下第二小学校以外の学校には冷房設備がなく、夏季において集中して学業に臨むことが困難な状況であったため、臨時特例交付金を活用し施設面でのよりよい教育環境を整備するため、エアコン整備事業を実施した。

平成30年度は基本設計及び詳細設計が完了し、次年度に整備工事を行うための予算を措置した。

4 生涯学習の推進

平成29年3月に策定した、山元町教育基本計画アクションプランに基づき、社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策とし、併せて地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。

中でも、より一層の協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進しました。

また、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

(1) 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

① 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供しました。

ア 子育てサポーターの養成

No.	事業名	期間	回数	参加者数(人)	備考
1	子育てサポーター・リーダーネットワーク研修会	7/11	1	4人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
2	子育てサポーターリーダー養成講座	9/5～ 12/5	4	延べ 15人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
3	子育てサポーター養成講座	5/29～ 6/19	4	延べ 15人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
4	宮城県家庭教育支援チーム員研修会	5/8～ 10/25	3	延べ 6人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
5	家庭教育支援チーム「つばめ」スタッフ研修会	1/10	1	11人	研修会「金融経済教育講座」『できていますか？家計のやりくり』 講師：東北財務局・金融監督第三課
6	市町村家庭教育支援関係職員研修会	4/26	1	1人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
7	子育て・家庭教育支援フォーラム	11/1	1	5人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)

イ 家庭教育支援チームの活動支援

No.	情報紙名	会員	活動等
1	家庭教育支援チーム「つばめ」	27人	毎月定例会（スタッフ会議、情報誌発行（年6回 各回700部）、家庭教育学級等支援

ウ 子育てサークルの活動支援

子どもセンターを主な活動の場とし、活動及び運営の補助を行いました。

No.	団体名	内容	活動日等
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日 11家族

② 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり

ア 地域学校協働本部の設置

地域学校協働本部の設置要綱及び山元町地域学校協働活動コーディネーター等設置要綱を平成30年3月に告示し、平成30年6月に3名のコーディネーターを委嘱しました。平成30年度は本部の組織化と運営等について打合せ等を行ないました。 ※要綱、平成30年4月1日施行

イ 地域人材を活用した学校教育活動の支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、スポーツ推進委員や指導者、安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図りました。

ウ 学校支援教育

No.	学校名	学年	時期	内容	備考
1	山下小	1・2	4/13	交通安全教室安全見守り	ボランティア3人統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人 生涯学習課1人
		5	8月	金管バンド指導	講師1名
		全	9/21	縦割り山登り安全見守り ※雨天中止	ボランティア10人 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
		全	11/22	持久走大会安全見守り	ボランティア10人 統括コーディネーター1人 生涯学習課2人
		2	1/24	まち探検見守り	ボランティア3人 統括コーディネーター1人
		5	1/29	防災学習協力	講師2人 生涯学習課1人

1	山下小	6	2/19	復興へ向けた取組①	講師 4 人 統括コーディネーター 1 人 生涯学習課 1 人
		6	2/20	復興へ向けた取組②	講師 1 人 生涯学習課 1 人
		5	2/25	防災学習	講師 3 人 統括コーディネーター 1 人 生涯学習課 1 人
		全	通年	読み聞かせボランティア	6 人 (年 20 回)
2	山一小	5・6	9 月	合唱指導	ボランティア 1 人
		全	通年	読み聞かせボランティア	6 人 (年 20 回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア 2 人
3	山二小	3	9/21	民話・昔遊び活動	講師 1 人
		全	通年	読み聞かせボランティア	7 人 (年 20 回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア 67 名
4	坂元小	全	6/12	スポーツテスト計測補助	ボランティア 3 人 生涯学習課 1 人
		3	6 月～	りんごの学習指導	指導者 1 人 (年 5 回)
		4	6 月～	神楽の学習	指導者 6 人 (年 12 回)
		5	6 月～	いちごの学習指導	指導者 1 人 (年 4 回)
		5	1/23	大正琴体験	ボランティア 10 人 生涯学習課 1 人
		1～	2 月	国際理解交流活動	講師 1 団体 (6 人)
		全	通年	読み聞かせボランティア	7 人 (年 20 回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア 40 人
5	山下中	2	5/7 ～9	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協力事業所 50 か所 統括コーディネーター 1 人
		1	7/11 7/18	ミシン活動補助ボラン ティア	(延べ)ボランティア 10 人 統括コーディネーター 1 人
		1	3/7 3/14	和装着付け体験	(延べ)ボランティア 20 人 統括コーディネーター 1 人 生涯学習課 1 人

6	坂元中	2	9/5~7	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協力事業所 50 か所 統括コーディネーター1人
		3	12/13	話し方講座	講師 2人 統括コーディネーター1人

エ 放課後子ども教室活動の充実

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/11 ~ 3/8	28	21人 (延べ470人)	会場:坂元小学校・坂元 おもだか館 スタッフ数10人 (延べ153人)
2	みやまっこクラブ (山下小・山一小・ 山二小対象)	5/8 ~ 3/5	25	24人 (延べ480人)	会場:山下第一小学校 スタッフ数9人 (延べ151人)

③ 子どもたちの体験活動の推進

ア 地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）の実施

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ジュニア・リーダー 初級研修会 (小学6~中学3年生対象)	3/23 ~24	1	5人	会場:宮城県蔵王 自然の家
2	学校開放 「やまもと楽校」	11/24	1	延べ125人	会場:ひだまり ホール 協力:町内ボラン ティア講師 6人
3	青年活動活性化事業 「勤労ホームロビー ミニコンサート」	12/16 ~ 3/17	3	延べ160人	会場:勤労青少年 ホームロビー、ひだまり ホール

イ 社会教育関係団体等育成のための補助金

No.	団体名称	金額(円)	備考
1	なかよし会	13,000	11家族13人
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	12人
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	34名(中18、高16)
5	亘理地区少年補導員協会	68,000	15人
6	山元町文化協会	266,000	324名(34団体)
7	山元町老人クラブ連合会	309,000	168人
8	各単位老人クラブ(4団体)	192,000	27,000円+会員数×500円

ウ 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額（円）	備考
1	ジュニア・リーダー上級研修会	8,000	参加者2人

エ 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	金額（円）	備考
1	第21回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会	25,000	@5,000円×5人 会場：伊達市

④ 家庭教育の充実

ア 家庭教育学級・幼児学級の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	家庭教育・幼児学級 (就学予定の幼児と保護者対象)	6/8 ~2/8	12	延べ201家庭 (延べ409人)	協力 ・4小学校各3回 ・2回目に宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」ワークショップを町家庭教育支援チームが講師となって開催

イ 家庭教育講座の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ちびっこひろば「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者対象)	6/21 ~ 1/24	6	延べ90家庭 191人	町内社会教育施設等で開催

ウ 親子ふれあい事業の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	9/22	1	200人	鑑賞者：園児、保護者、職員

(2) 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

① 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

ア 町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報を提供する。

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第42回町民文化祭	11/2 ～4	1	2,800人	主催：山元町文化協会
2	第22回文化推進事業 「合戦原の壁画がたり」	11/4	1	252人	主催：山元町文化協会

イ 国や県の事業（巡回小劇場等）を積極的に活用しました。

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	宮城県巡回小劇場小公演 「ヴァイオリンとチェロ の演奏会」 (坂元中、山一小)	11/2	2	坂元中 72人 山一小 91人	主催：県教育委員会 共催：町教育委員会

② 文化財の保護と活用

ア 無形文化財伝承団体に対し、関係する機関や団体等が開催する発表会等の情報を提供しました。

No.	団体名	備考
1	・坂元神楽保存会 ・當護稻荷大神楽保存会 ・坂元おけさ保存会	第42回山元町町民文化祭 (中央公民館：11月3日) 伝統芸能を広く 発表することに 努めた

イ 文化財保護委員5名を委嘱し、町文化財等に関する答申を行いました。

- ・文化財保護委員会 開催回数 4回

ウ 指定文化財茶室等整備・活用検討委員会

検討委員8名を委嘱し、歴史建造物等の保存・活用に関する検討を行いました。

- ・指定文化財茶室等整備・活用検討委員会の開催 3回

エ 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

東日本大震災に伴う復興事業に関連して実施された発掘調査において出土した金属製品や土器をはじめとする多数の遺物の保管先である収蔵庫建設のため、建物の基本・実施設計を実施しました。

- ・埋蔵文化財収蔵庫基本・実施設計

○請負者 (株)群建築設計事務所

○期間 平成30年7月20日から平成31年3月20日まで

○契約額 4,828,000円

オ 復興交付金事業 埋蔵文化財現地発掘調査実施箇所一覧

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査時期	備考
1	新田遺跡	花釜区	県道山下停車場線改良工事	確認調査	9月	県事業
2	北泥沼遺跡	牛橋区	県道相馬亙理線改良工事	確認調査	12月	県事業

カ 復興交付金事業 埋蔵文化財整理業務実施遺跡一覧

No.	遺跡名	行政区	調査原因	業務内容	備考
1	合戦原遺跡	合戦原区	防災集団移転等	出土品の整理	
2	葦首城跡	下郷区	坂元小講堂改築	発掘調査報告書刊行	

キ 町指定文化財

・山元町指定文化財茶室部材調査

町指定文化財である「茶室」について、襖下張り古文書の保護、及び柱・梁等の部材調査を実施しました。

○請負者 ㈱伝統建築研究所

○期 間 平成30年6月28日から平成31年2月28日まで

○契約額 2,214,000円

・町指定文化財（茶室）境界竹柵修繕

町指定文化財茶室等の敷地の隣地境界に設置していた竹柵について、昨年度に引き続き、経年劣化に伴う修繕を実施しました。

○請負者 茶山林泉株式会社

○期 間 平成30年5月29日から平成30年7月23日まで

○契約額 459,000円

ク 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建て替えや、町指定文化財茶室・大條氏御廟・中島館跡の草刈り等を実施し、環境整備に努めました。

・文化財標柱の更新等

No.	場 所	内 容	備 考
1	犬塚遺跡・狐塚古墳群	文化財説明板設置	2台

ケ 文化財行政団体への参画及び負担

No.	団体名称	金額（円）
1	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

コ 団体への補助金の交付

No.	団体名称	金額 (円)
1	坂元神楽保存会	10,000
2	坂元おけさ保存会	10,000

③ 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

ア 町民グラウンドの復旧及び機能拡張

震災前に広く町民に活用されていた町民グラウンドについて、平成30年9月に、県による仮設住宅の解体撤去及びグラウンドの復旧作業が完了しました。

また、グラウンドを定期利用している競技団体と複数回の意見交換会を行いながら、ソフトボールコート等の3面確保など、機能拡張と利便性向上を目的とした実施設計を平成31年3月までに行い、令和2年度には拡張整備工事に着手する予定としています。

イ スポーツ振興くじ等を活用した運動器具の更新

H30年度は3台の更新を行いました。

No.	器具名	台数
1	ランニングマシン	1
2	アジャスタブル・プーリー	1
3	ヒップアダクション	1

ウ 事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	トレーニング器具 取扱い講習会	4/15 ～ 3/25	14	74人	会場：体育文化センター 指導者：スポーツ推進委員
2	宮城ヘルシー2018 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	9/2	1	34人	会場：県総合運動公園 主催：県・県教育委員会ほか

(※) 山元町からの出場は、グラウンドゴルフ8人、ペタンク6人、家庭バレーボール2チーム(20人)でした。

エ スポーツを通し、町民同士の繋がりを甦らせることを目的に町民綱引き大会を開催しました。

・町民綱引き大会(平成31年2月3日開催)

部門	参加チーム数	参加者数
行政区の部	8チーム	111人
企業の部	10チーム	136人
ジュニアの部	4チーム	47人
審判		16人
その他(応援)		40人

スタッフ		19人
合 計	22チーム	369人

オ スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手（団体・個人）に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

・補助金の交付状況等

No.	団体名称等	金額（円）	備 考
1	山元町体育協会	1,246,000	12 団体が加盟
2	山元町スポーツ少年団	300,000	オオツボスポーツ寄付分
3	各行政区（地域スポーツ・レクリエーション事業補助金）	110,000	@10,000×11 行政区

・賞賜金の交付状況

No.	区分	件数	金額（円）	備 考
個人	全国大会出場	22 件	220,000	ソフトボール 5 件（3 人）
				野球 5 件（5 人）
				空手道 6 件（4 人）
				柔道 2 件（2 人）
				卓球 1 件（1 人）
				チアダンス 3 件（3 人）
団体		2 件	100,000	ソフトボール 2 件（1 団体）

カ パークゴルフ場事業可能性調査

交流人口 100 万人を目指し、震災からの復興プロジェクトである交流拠点とにぎわい創出の場、健康増進の場として整備が検討されているパークゴルフ場について、業界の情勢や動向等から市場調査を実施し、運営モデルを踏まえた維持管理方法等から採算性の整理を行うため、事業可能性調査を実施しました。

(仮称)山元町パークゴルフ場事業可能性調査業務委託	
期 間	平成 30 年 10 月 5 日～平成 31 年 3 月 22 日
内 容	市場調査、採算性調査他

④ 施設の利用状況

ア 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数	前年度利用者数
1	中央公民館	28,051 人	37,686 人
2	勤労青少年ホーム	7,699 人	15,719 人
3	山下地域交流センター	78,822 人	25,302 人
4	坂元地域交流センター(坂元公民館)	25,619 人	13,172 人
5	深山山麓少年の森	19,288 人	20,052 人
6	歴史民俗資料館	2,415 人	1,035 人
7	ふるさと伝承館	5,460 人	3,283 人

イ 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数	前年度利用者数
1	体育文化センター (武道館を含む)	16,100 人	16,327 人
2	町民グラウンド	904 人 (9 月から供用開始)	— (仮設住宅用地に供与)
3	山寺深山グラウンド	1,829 人	3,513 人
4	真庭グラウンド	1,345 人	1,250 人

(3) 防災教育を通じた命を守る意識の高揚

① 震災遺構の活用

ア 震災遺構としての整備・保存【旧中浜小学校震災遺構保存整備事業】

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構として」保存・活用することを目的に、改修設計等業務、展示等設計業務、モニュメント設計業務を実施しました。

旧中浜小学校震災遺構保存整備に係る改修設計等業務委託	
期 間	平成 29 年 12 月 2 日～平成 30 年 11 月 30 日
内 容	校舎改修設計、管理棟新築設計、測量調査、広場設計他

山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）

山元町教育振興基本計画（アクションプラン）

（平成30年度）

【山元町教育委員会】

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成

評価(達成度): A(90%~) B(70%~) C(40%~) D(40%未満) N(評価不能)

(1) 「志教育」の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
「志教育」 の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	「志教育」全体計画・年間指導計画の充実と志担当教諭を中心とした組織的・計画的な推進	B	・学校行事や総合、生活科等の中に志教育の視点を位置付け、担当教師を中心に推進と振り返りを行うことができたが、「はたす」の観点に課題が見られた。	坂元小
			B	・全体計画及び年間指導計画を基に、学校行事や児童会活動などの活動に、志教育の目標（かかわる・もどめる・はたす）を設定し、実践してきた。	山下小
			B	・教育活動全体の中で「志教育」を意図的・計画的に実践している。さらに目的を意識化して、志教育の充実を図りたい。	山一小
			A	・全体計画・年間指導計画を基に特別活動を中心とした教育活動に「かかわる」「もどめる」「はたす」を組み入れた活動を行っている。	山二小
			A	・志教育の「かかわる」「もどめる」「はたす」の3つの視点を各教科の年間計画の中に明記し、志教育を組織的に推進した。	坂元中
			B	・各学年での取組を、自己の将来や生き方と関連づけて生徒の主体的な活動として実施し、総合発表会において全生徒がプレゼンを行ない表現力の伸長を図ることができた。	山下中
		「みやぎの先人集」等資料の効果的な活用	A	・先人集第一集に加え、第二集の活用や価値項目から児童の実態に応じた資料を活用し、特に高学年で先人の生き方を通して考えさせることができた。	坂元小
			B	・児童に指導したい内容項目に合わせて先人集より資料を選択し、DVDを活用しながら、先人の生き方を考えさせることができた。	山下小
			A	・「みやぎの先人集」を道徳や読書の時間に活用し、自分の考えをもたせて感想などを書かせた。	山一小
			B	・「みやぎの先人集」は各学級に配置され、指導内容に応じて一部活用しているが、効果的に活用しているとまではいえない。	山二小
			B	・みやぎの先人集も含めて、資料の効果的な活用ができた。	坂元中
			C	・より効果的な活用法を今後検討していきたい。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
「志教育」 の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	家庭・地域との連携、交流活動や体験活動等の推進	A	・地域の歴史や文化を継承してきた人々の「神楽」や「おけさ」等の思いや願いを体験活動から学ぶことができ、交流活動につなげることができた。	坂元小
			A	・宿泊学習及び校外学習での見学・体験活動、学校支援ボランティアとの関わりを通して、人間関係の大切さに気付くことができた。	山下小
			A	・地域学習やボランティアとの交流、校外学習での見学や体験活動等で人と関わるにより社会性を育むことができた。	山一小
			A	・地域との連携・家庭との連携は教育活動に位置付けられ、多くの取組が見られる。	山二小
			A	・坂元おけさ体験や地域の敬老会とのグラウンドゴルフ交流会、職場体験など、地域の方を迎えての学習・交流を行った。	坂元中
			A	・ボランティア活動等に参加することで、満足感や自己肯定感を味わわせることができた	山下中
			【その他の評価指標】「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計	「将来の夢や目標を持っている」 小：84.5%、中：78.0% 「人の役に立つ人間になりたいと思う」 小：87.8%、中：94.1%	

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、校内研修や少人数指導等指導体制の充実を図る。	校内研修の充実に向けた研究主題の設定と研究主任を中心とした組織的・計画的な推進	A	・事前、事後の模擬授業や指導主事学校訪問のB訪問だけでなく、D訪問により、研究の土台となる学び合いが深められるようになった。	坂元小
			A	・研究主題「自ら考え、進んで伝え合う児童の育成」を目指し、①全員1回の授業研究の実施②協働による授業づくりと事後検証を計画的に実施した。	山下小
			A	・特別の教科 道徳を研究の中心に据えて、指導力向上に向けた共同的研修を実施し、通信票などの実務にも活用することができた。	山一小
			A	・「自分の考えをもち、主体的に表現する児童の育成」を主題として、研究主任を中心として全職員が研究授業を計画的に実施した。	山二小
			A	・各教員が年1回、研究授業を行い、研究主任を中心として、協働による研究を進めた。	坂元中
			A	・研究主任を中心に、校内研究主題を意識した授業づくりを各教科毎に進めることができた。	山下中
		T Tによる指導、少人数指導等効果的な指導体制の充実	A	・複数教員で指導方法を確認し、個人差に応じた習熟度別の少人数指導だけでなく、等質での少人数指導の工夫等により理解が深められている。	坂元小
			N	・本校ではT T指導並びに少人数指導を実施する職員の配当がない。	山下小
			A	・個別指導や支援が必要な児童を職員間で共有し、支援員や担任外の教員による指導体制を整え、学習内容の理解・定着が図れるよう指導することができた。	山一小
			A	・加配を有効活用して、3学年以上の算数においては基本的に少人数指導としてT Tや補充的・発展的な学習を行い、児童の実態に合わせた効果的な指導を実施した。	山二小
	A		・数学と英語について、T Tによる指導を行い、きめ細かい指導を行った。	坂元中	
	A		・3年数学・英語において、習熟度別の少人数指導を実施し、個に応じた指導ができた。	山下中	
		教員を対象に、指導力向上に向けた研修会等を開催する。	指導力向上研修会等の開催（外部講師等による研修）	A	・夏季休業中に町内の全教員を対象とし実施したため、81人も教員に参加頂いた。 ・指導力向上に関連する議題と外部講師の選定が課題である。

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	改訂版の検討・作成	B	・耐久性をよくすることを検討したが、端から曲がったり、剥がれてしまったりすることがあり、児童は下敷きとして使えなくなっているものも多い。	坂元小
			A	・指導実践を振り返ることで、児童がより活用しやすいものとなるよう改訂に向け学校内で話し合った。	山下小
			A	・「3つの約束」に対する各校の取組を情報交換し、ノーメディアデーのような実践をしている学校があることを知り、31年度、本校でも検討している	山一小
			B	・下敷きを配付して生活や学習について継続的に指導した。	山二小
			B	・本校生徒の実態等に照らして、検討した。	坂元中
			B	・町内「3つの約束」プロジェクトチームにより内容の再検討を行った。	山下中
			B	・前年度に改訂を行ったため30年度は各学校で児童生徒への日常化への指導の工夫に努め、活用の在り方について各校での実践の共有化に努めた。	教総課
		児童生徒に対する適切かつ工夫した指導	A	・教室への掲示や宿題、自主学習等の目安にできるような声掛け、集会活動等での指導を行っている。	坂元小
			B	・各教室に掲示するとともに、毎月はじめに活用状況について確認した。	山下小
			B	・3つの約束の内容や配付の意義について、学年に応じた具体的指導を継続的に実施する必要がある。	山一小
			A	・常に学級を通じて指導が行われ、児童会としてもノーメディアデーの「山二の日」を設定した。	山二小
			A	・各学級で説明しながら配付するとともに、教室に掲示し、機会を捉えて話題にした。	坂元中
			B	・学級活動の時間を活用し、具体的な指導を行った。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に向けた基本的生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	保護者への適切な啓発と連携	A	・学校だよりに掲載したり家庭への掲示用に各家庭に配布したり、するなど、継続して啓発に努めている。	坂元小
			A	・PTA総会、役員会等で保護者への啓発を図った。 ・PTAとの連携により、1月よりノーメディア・ウィークチャレンジを始めた。 ・学級懇談会等で情報交換を行った。	山下小
			B	・学校作成の「家庭学習の手引き」等とも関わらせながら、懇談会等で話題にして啓発している。	山一小
			A	・保護者に対しては、総会や懇談会において何度も説明し啓発活動を行った。	山二小
			B	・PTAの学年懇談会などにおいて話題にした。	坂元中
			B	・プロジェクトチームにより作成された資料を保護者に配布し啓発を行った。	山下中
	児童生徒の基礎学力向上を図るため、放課後や夏季休業中等の学習支援を実施する。	補助事業を活用した外部指導者による学習支援 (平成30年度から小学校でも実施)	B	・5年生限定であったが、夏休みや冬休みの児童の反応はよく、放課後の学習も数が少ない中ではあったが効果があった。	坂元小
			B	・夏季休業中に、「まなびの森」による算数学習会を実施した。	山下小
			A	・長期休業中の「まなびの森」事業により、基礎基本の定着が少しでも図れたと感じる。学校でも、放課後学習会を開くなど学習の機会を増やしている。	山一小
			B	・町内5年生を対象に夏季休業中に5日、3学期には週1回のペースで外部指導者による算数の学習支援が行われた。	山二小
			A	・まなびの森のスタッフに支援いただき、数学・英語の授業でのTT指導、放課後や長期休業中の学習支援を行った。	坂元中
			A	・「まなびの森」による授業支援、放課後学習支援、長期休業中の学習支援を、年間を通して計画的に行うことができた。	山下中
			A	・国の緊急スクールカウンセラー事業を活用し、中学校の授業、放課後、夜間、長期休業中に学習支援及び小学校の長期休業中の学習支援を実施した。	教総課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	家庭学習ノートを提出させるなど、学校としての具体的な取組について、指導の充実を図る。	日常的な指導と評価	A	・家庭学習に課題となっている「書く」観点の日記指導を取り入れたことで書く習慣ができてきた。	坂元小
			A	・家庭学習の手引きを作成し、習慣化を図ってきた。 ・学習規律を定着させるために、学習への取組方や学習用具、話し方・聞き方について網羅した「学びの基本」を作成している。	山下小
			A	・家庭学習の内容を示し、時間の目安も提示して習慣化を図ってきた。また、家庭学習ノートへの教員の朱書きを継続し、学習意欲を喚起してきた。	山一小
			A	・「家庭学習のすすめ」を示し、家庭学習の提出確認と担任評価を毎日実施した。	山二小
			A	・自主学習ノートを提出させた。平成31年度より学習計画等を助言する場をつくり、校長及び支援員等が家庭学習の定着と内容の充実について支援する。	坂元中
			A	・SUN（ステップアップノート）を全職員で添削指導し、家庭学習の習慣化及び定着を図った。	山下中
		【その他の評価指標】「家庭学習時間（小5：1時間以上 中1：3時間以上）」「授業が分かる」と答える児童生徒の割合（小5・中1）（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計）「ゲーム・スマホ等の時間（1時間以内）」	「家庭学習時間」 「授業が分かる」 「ゲーム・スマホ等の時間」	小：45.5%、中：10.3% 小：国語91.9%、算数85.0% 中：国語94.7%、数学92.9% 英語82.1% 小：37.7%、中：39.7%	

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に係る学校間の連携	各校の学力向上プランを町内全校で共有し、指導に生かす。	学力向上プランの作成と共有（研究主任者会）	A	・基礎・基本の定着を目指した言語活動の充実や読む力、書く力の向上、そのための授業力の向上を目的に共通理解して取り組んでいる。	坂元小
			B	・研究主任を中心に学力向上プランを作成し、各校情報や状況を共有することができた。	山下小
			A	・研究主任を中心に学力向上プランや町実施の学力調査の結果を作成し、情報や状況を共有することができた。	山一小
			A	・各調査の結果分析及び学力向上対策を示した学力向上プランを作成し、職員にも共有して指導に生かした。	山二小
			A	・研究主任を中心に作成にあたり、校内でも共有した。	坂元中
			B	・生徒の実態を踏まえプランの作成に当たったが、具体的な活用までは踏み込めなかった。	山下中
	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	B	・指導主事訪問の資料を小・中学校で配布したり、相互参観したりすることで情報交換につなげている。 ・学力向上の小中連携を一層進める必要がある。	坂元小
			B	・出前授業や一日体験入学を年間予定に組み込み、計画的に小・中学校間の連携を図ることができた。	山下小
			C	・小学校間では一部、指導主事訪問の参観を行った。中学校とは中1ギャップ解消のための連携はあったが、学力向上を意図とした内容はなかった。今後、中学校の先生にも授業を見に来ていただき、学力向上に向けた情報を共有する。	山一小
			B	・指導主事訪問時には各校に参観の案内を出し、少人数ではあったが相互参観が実施できた。情報交換は主任者レベルで行った。	山二小
			A	・指導主事訪問時の教員の相互参観や、新1年生の授業参観を行うとともに、新1年生について情報交換を行った。	坂元中
			A	・小学校への出前授業や一日体験入学を年間予定に組み込み、計画的に学校間の連携を図ることができた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
幼保小の連携・交流の促進	幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続が図れるよう、小学校就学前の幼児の情報を共有する。	家庭教育学級及び幼児学級の開催、就学予定児童に関する情報交換会の開催【H29～】	A	・情報交換を定期的に行い、課題のある就学予定者の情報交換や引継ぎだけでなく、実際に見て入学後の対応を考えることにつなげることができた。	坂元小
			A	・幼児学級や情報交換会に基づき、入学前の幼児についての実態を把握することができた。	山下小
			A	・山元支援学校職員による児童観察・報告や情報交換会での情報提供は入学後の児童対応に有効である。	山一小
			A	・家庭教育学級と並行して幼児学級を開催するなかで児童観察ができ、合わせて別に情報交換会も行えた。	山二小
			A	・学校、幼稚園、保育所及び山元支援学校と調整を図り、小学校への円滑な接続ができるよう努めた。	教総課
			A	・家庭教育学級を通じ家庭の繋がりや子供に関する情報交換会を開催し、連携に努めた。	生涯学習課
		幼保小相互参観、連絡会の開催	A	・入学後の児童の様子や入学して気付いた課題等を個別に情報交換したり、指導に役立てることができた。	坂元小
			A	・連絡会を開催することで、情報共有が図られ、入学後の指導に役立てることができた。 ・気になる児童については保育参観を実施した。	山下小
			A	・幼保小連絡会の実施により、就学予定児童についての情報を共有できている。参観と共に情報を級友できたことはよかった。	山一小
			A	・年1回2月に授業公開と幼保小連絡会を実施するとともに、別日には学校から幼稚園保育所を参観した。	山二小

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
高度情報化 社会への対 応	高度情報化社会への対応、校務の情報化、学力向上等を支援するため、学校におけるICT機器等の充実を図る。【28年度 学校用PC更新】	次期更新時（H33予定）に向けたICT環境（タブレット端末）の検討・整備（MIYAGI styleの検討）	N	・来年度、各学校の整備状況を調査し、ICT環境の導入に向けて検討を行う。	教総課
		校舎及び体育館（避難所）等におけるWifi環境の整備	N	実施未定	教総課
	情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育を推進する。	各教科での指導の充実や「安全教室」の実施等	B	・ICT機器等を指導に生かすための効果的な活用の方法等、情報モラルの指導も含め研修することができた。	坂元小
			B	・情報活用能力及び情報リテラシー教育を計画的系統的に位置付けて指導してきた。	山下小
			A	・情報活用能力や情報モラル育成を計画的に実施している。SNS等スマホ等の使い方については6年生が企業と警察のタイアップで学習している。	山一小
			B	・高学年を対象とした安全教室を実施した。保護者にもよびかけ一緒に参観できるようにした。	山二小
			A	・亘理警察署や携帯会社に講師を依頼しての「安全教室」や「ケータイ教室」を実施した。	坂元中
B	・2学年において、亘理警察署の協力を得て「情報モラル教室」を実施した。	山下中			
環境教育の 推進	自然豊かな町の特性を生かした体験活動等を通して、環境教育を推進する。	各教科での指導の充実及び地域体験活動の実施等	A	・校内の緑化活動だけでなく、防災教育と関連付けた防災林としての植樹作業を位置付けた支援団体との学習もさらに深化できた。	坂元小
			A	・生活科及び総合的な学習の時間に地域の自然を取り入れた見学・体験活動を計画し実施した。 ・学校支援ボランティアとの連携も充実していた。	山下小
			A	・各学年に応じた地域学習の中で、見学・体験活動を計画的に実施している。	山一小
			A	・グリーンベルトプロジェクトの方を招いての学習会や公園管理会の方を招いての学習会を継続して実施している。	山二小
			B	・地域の環境教育に特化した取組はなかったが、地域の状況等について、機会を捉えて指導した。	坂元中
			B	・町ふれあい産業祭では生徒が環境美化活動に参加するなど環境保全への意識を育んでいる。	山下中

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	・教育的ニーズに応じた個別の指導計画等に基づいた教材の要望に迅速に対応し、購入や活用することができた。	坂元小
			A	・特別支援教育支援員3名を配置していただき、児童のニーズに応じた個別支援を実践することができた。	山下小
			A	・特別支援教育支援員の配置により、充実した個別支援を行うことができた。	山一小
			A	・特別支援教育支援員2名を配置していただき、児童の実態に応じた校内支援体制を整えられた。	山二小
			N		坂元中
			B	・2名の支援員配置であったが、3学級ある現状を踏まえると1名の増員が求められる。	山下中
			B	・各学校の実情に応じ、町負担により各学校に特別支援教育支援員を配置した。 ・支援員を適正な配置人数を確保し、児童のサポートができるよう検討したい。	教総課
		校内における指導・協力体制の確立、町内交流会の実施等	A	・校内において特別支援コーディネーターを中心とした個別のケース会議をする体制を確立し、情報や指導に対する情報共有ができ、指導に生かされた。	坂元小
			A	・特別支援コーディネーターを中心に支援体制が整備され、共有した情報に基づいて適切な指導・支援が行えるようになっている。	山下小
			A	・毎月の「子どもを語る会」や日常的な会話の中で情報を適宜共有し、学校として組織的に対応することができた。特支学級が新設され、他校との交流を行った。	山一小
			A	・協力学級での交流も十分に行えている。また、町内の特別支援交流会も計画的に行えた。	山二小
			B	・特別支援学級は設置されていないが、「気になる子チェック」を実施し、支援が必要であろうと思われる生徒の支援についてケース会議で協議した。	坂元中
			B	・生徒への個別支援体制の整備はある程度整っていたが、具体的支援内容についての確認が不十分であった。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教育の推進	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	特別支援教育連絡協議会、就学指導審議会等における協力	A	・山元支援学校教諭による講演や研修等の協力を得て、特別支援教育連絡会を年3回実施した。 ・就学相談等で助言をいただき、児童の就学先決定に生かすことができた。	教総課
		幼児学級での観察・指導助言、就学予定児童に関する情報交換会における指導助言等	A	・就学予定児童に関する情報を共有し、指導助言が必要と思われる児童について個別に情報交換することができた。	坂元小
			A	・地域コーディネータによる的確な観察及び、それに基づく指導助言は指導方法や指導体制を検討する上で大変参考となった。	山下小
			A	・幼児学級における教育委員会、保健福祉課と山元支援学校との連携により、より多面的な指導助言を受けることができた。	山一小
			A	・山元支援学校との連携により、十分な指導助言を受けることができた。	山二小
			A	・幼児学級等で気になる子どもの様子を山元支援学校教諭に観察してもらい、個々の特性を把握したうえで指導方法等の助言を受けることができた。	教総課
			A	・幼児学級を通じ、就学前児童の情報交換会（幼稚園、保育所、小学校、支援学校）を開催し、連携に努めた。	生涯学習課
		日常的な相談、居住地校交流等による連携	A	・特別支援コーディネーターを核とし、山元支援学校との交流授業を取り入れ、理解を深めた。	坂元小
			A	・日常的に教育相談等連携しやすい体制が整っている。居住地校交流は、双方の児童の変化（成長）にとって効果的である。	山下小
			B	・SCに相談し、関連する専門機関で対応していただいたので、今年度は深い関わりがなかった。	山一小
			B	・児童の居住地交流はないが、山元支援学校とは連携体制が整い、気軽に相談できる関係にある。	山二小
			A	・山元支援学校のコーディネーターにおいでいただき、助言をもらっている。	坂元中
			B	・居住地校交流では取組が単発になり、日常的な交流が図れていない。	山下中

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的事項③**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	「特別の教科 道徳」を中心とした道徳教育の改善・充実	A	・「学校のきまり」や「友達との約束」を守っている児童が100%である。ただし、規範意識と道徳的な実践力についてはやや乖離も見られ、さらに指導を工夫する必要がある。	坂元小
			B	・作成した年間指導計画及び別葉を基に、「特別の教科道徳」の実践に努めた。 ・評価について研修し通信票の所見に生かした。	山下小
			A	・「特別の教科 道徳」を校内研究とし、児童の考えや気持ちの変化を捉え、道徳性を育てることができた。	山一小
			B	・道徳の全体計画別葉を作成した。評価の在り方については課題が残った。	山二小
			A	・教科化の本格実施に向けて、指導の充実を図るために、年間指導計画の見直しを行った。	坂元中
			B	・「特別の教科 道徳」の実施に向けた教員研修等を計画的に行うことができた。	山下中
		各教科等における指導の充実	A	・「学校のきまり」や「友達との約束」を守っている児童が100%である。ただし、規範意識と道徳的な実践力についてはやや乖離も見られ、さらに指導を工夫する必要がある。	坂元小
			B	・主体的で対話的な学びについての研修を深め、児童のコミュニケーション能力の育成に努めてきた。	山下小
			A	・学級経営として、規範意識やコミュニケーション能力の育成に努めている。さらに教科等の特質に応じた指導を行うことで、人間性や社会性を育てている。	山一小
			A	・体験を重視し、各教科のねらいをふまえながら言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図った。	山二小
			B	・道徳教育全体計画別葉を基に実践した。	坂元中
			B	・「伝え合う力」の伸長を目標に、各教科において発表活動や話し合い活動を意図的に取り入れた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	各種体験活動・文化活動（中学校は部活動も含む）等における指導の充実	B	・集団としての規律や挨拶、聞く態度、質問する態度等、多くの活動の中で発達段階に応じて指導の継続が必要である。	坂元小
			A	・学年の発達段階や学習内容に応じた校外学習や体験活動を計画し、志教育と連動させながら、よりよい人間関係の構築に努めてきた。	山下小
			A	・宿泊体験活動や校外学習等において多様な自然・人・文化・歴史・社会と関わり、協働的な学習を進めることで、人間性・社会性を高める一助となった。	山一小
			A	・ねらいに沿って学校全体で共通行動をとり、体験活動が充実するよう工夫して指導にあたった。	山二小
			A	・全職員が全生徒の指導に当たるという意識を常に持ち、様々な場面で精力的に組織的に協働して指導に当たっている。	坂元中
			B	・仲間意識や自己有用感を育てる指導を、各部活動で行った。	山下中
いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	SC、SSW、町教育相談員の配置と相談活動	B	・SSWによる支援が49件中5件が改善の方向となり活用が広がった。 ・相談件数の少ない学校でも支援の必要なケースは多いので活用のさらなる活性化が課題である。	教総課
		ケース会議、要保護対策連絡協議会、いじめ問題策連絡協議会等の開催	B	・要保護児童等の対応について、各関係機関が連携し対応することができた。年3回開催される実務者会議に出席し、情報共有を図った。 ・不登校については、児童生徒の対応を検討する必要がある。	教総課
			B	・要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、要保護児童等への適切な支援を協議した。	子育て定推課
		各学校における教育相談（定期的なアンケート調査の実施、二者・三者面談等）の充実	A	・定期的な教育相談「つながりタイム」を活用し、アンケート結果や児童間のトラブルからのいじめの早期発見、未然防止、外部機関と連携につなげることができた。	坂元小
			B	・毎月1回の「学校生活アンケート」を通して、児童の悩みや問題を把握し、いじめの早期発見、未然防止につなげることができた。	山下小
			A	・毎月の生活（いじめ）アンケートを実施し、結果を共有することで、課題を抱えている児童に早期に、組織的に対応することができた。	山一小
			B	・学校生活アンケートといじめアンケート、QU調査によって児童の実態把握に努めた。	山二小
			A	・全職員が全生徒の指導に当たるという意識を常に持ち、様々な場面で精力的に組織的に協働して指導に当たっている。	坂元中
			A	・月1度の「学校生活アンケート」の実施及び事後の相談活動を年間を通して行った。	山下中
		【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「小学校に比べ中学校の学校生活は楽しい」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計			「自分にはよいところがあると思う」小：75.9%、中：85.7% 「学校に行くのは楽しい」小：83.9%、中：80.4%

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	保健体育の授業を中心とした指導の工夫	A	・授業の導入時の中で、体力づくりに特化した縄跳び等の活動を位置付け、持久力の向上に努めた。	坂元小
			B	・個の運動量を確保する内容を工夫して取り組んだ。 ・養護教諭と連携して保健の授業を行い、健康の保持増進への意欲喚起に努めた。	山下小
			A	・保健の学習は養護教諭と連携し、食育や児童自身の健康へ意識を高めることができた。	山一小
			A	・縄跳びの奨励など季節に応じた指導を年間通して行った。	山二小
			A	・授業前の補助運動の工夫を行い、生徒が自分に合ったトレーニングに取り組む態度が育成できた。	坂元中
			B	・準備運動の行い方に工夫をし、意図的に体力向上を図った内容とした。	山下中
		運動会や持久走大会の実施など、体力・運動能力の向上につながる行事の工夫	A	・体育の体づくりの中に持久力向上の運動を取り入れ、持久走大会と関連付けて体力向上につなげた。	坂元小
			B	・体力・運動能力を向上させるために、継続的な取組を実践してきた。 ・泳ぎが苦手な児童のための水泳教室を実施した。	山下小
			A	・水泳や持久走・縄跳びなどの技能を高め、記録会当日は、練習の成果を発揮し、達成感を味わう児童が多かった。	山一小
			A	・業間マラソン・縄跳び活動などのイベントを行い児童を励ました。持久走記録会は次年度課題とした。	山二小
			A	・郡の陸上大会や駅伝大会への参加を促し、スポーツテストを全校で実施するなど、意欲を持って体力づくりをする態度を育成できた。	坂元中
			B	スポーツテストの結果を振り返り、各自の体力向上への意欲付けにつなげた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	業間を活用した全校一斉の取組など、授業・行事以外の取組の工夫（中学校は部活動も含む）	B	・体力運動能力テストのデータの検証をもとに、業間のマラソンや縄跳びの改善及び継続を図った。	坂元小
			B	・縦割りグループを活用して体力向上に向けた取組を行った。	山下小
			B	・1学期は自由遊びで仲間づくりと身体づくり、2学期は持久走記録会に向けた業間ランニング、3学期は縄跳び集会に向けた業間縄跳びを行った。	山一小
			A	・業間たてわり遊び・業間マラソンを実施した。	山二小
			A	・どの部活動も生徒、教員ともに熱心に取り組んだ。	坂元中
			B	・部活動指導において、体力の向上に努める運動に積極的に取り組んだ。	山下中
			【その他の評価指標】児童生徒の体力・運動能力調査結果に見られる改善傾向(小5、中2)		・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、持久走（中学校のみ）のうち、県平均を上回っているもの。 小 男子：握力、長座体前屈、反復横とび、立ち幅跳び 女子：握力、反復横とび、20mシャトルラン 中 男子：握力、持久走、立ち幅跳び 女子：反復横とび、持久走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ
(中学校) 地域人材を活用し運動部活動の充実を図る。	外部指導者の活用	C	・平成30年度は外部指導者を活用していない。平成31年度はバスケットボール部で活用予定である。	坂元中	
		B	・部活動外部指導者と連携を図り、生徒の体力・技能の向上に努めた。	山下中	
		B	・部活動の各種競技について、知識のある外部指導者を雇用し、生徒の技能向上に努めた。 ・部活動外部指導者について、県での予算措置は令和2年度までとなり、町予算での部活動指導員の導入を検討する必要がある。	教総課	
スポーツを通じた心と体の育成	体育振興や健康増進を目的に、各競技団体やサークル活動の支援等を行い、生涯スポーツの充実を図る。	県体育協会等が主催する各種大会等の情報提供	N	・特に該当する事業は無かった。	生涯 学習課
		町広報誌やホームページ等を活用した活動紹介や会員募集の推進等	B	・各種団体の依頼に応じ、広報等への掲載を行った。	
		スポーツ推進委員の派遣事業	B	・出前教室として、各小学校の体力テストや、各種事業へスポーツ推進委員の派遣を行いスポーツ推進に努めた。	

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等		
			評価	成果と課題			
食育の推進 と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	学校給食と各教科等との関連を図った指導の充実	A	・食に関する指導を学活、家庭科等に年間5時間設定し、年間計画に位置付けて実施し、食への理解を深めた。	坂元小		
			B	・食に関する指導の年間計画を基に、学級活動や生活科、家庭科、道徳と関連させて、食事の重要性や食文化、感謝の心を育んできた。	山下小		
			B	・給食指導計画により、各学年の教科等での食習慣や栄養指導を実施してきた。	山一小		
			B	・学級活動を中心に学年ごとに実態に合わせて指導した。	山二小		
			B	・栄養教諭が中心となり、指導に当たった。	坂元中		
			B	・学校給食と技術・家庭科との関連を図りながらの授業展開を工夫している。	山下中		
		栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	・本校児童の様子や個別に指導が必要な児童について栄養教諭と情報交換を行い、食の大切さについて学級活動の中で指導することができた。	坂元小		
			B	・栄養教諭等を講師に招き、食育についての授業を実施した。	山下小		
			B	・2年生での授業（栄養指導）を実施、給食の食材を使って、栄養に関する学習を行った。	山一小		
			A	・栄養教諭を中学校から招き、各学年において食育の授業を行った。	山二小		
			A	・栄養教諭が中心となり、季節の食材についてや成長期や受験期の食事について計画的に指導に当たった。	坂元中		
			B	・栄養教諭が給食だよりで、時季に応じた話題を取り上げ、多面的に食の大切さを理解させた。	山下中		
		【その他の評価指標】「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）			小：95.4%、中：89.3%		

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
食育の推進 と充実	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	学校給食への地元食材の積極的な導入	A	・給食時間の放送の中で、地元食材のPRや地域の特産品、生産者の思いなども発表している。	坂元小
			B	・栄養教諭からの食材に関するコメントを給食時に放送委員が校内放送を通して全校に知らせている。	山下小
			B	・栄養教諭作成の給食コメントを基に児童が昼の放送で地元食材を紹介することで関心や知識が高まっている。	山一小
			B	・栄養教諭からの食材等のコメントを校内放送を通じて児童に知らせた。	山二小
			A	・地場産品を積極的に取り入れ、校内放送や給食だよりで生徒に紹介した。	坂元中
			B	・地域の素材を積極的に取り入れた献立づくりを行った。	山下中
			B	・一部の地元業者について、食材納入業者となっている。	教総課
		郷土料理体験の実施（小5 はらこめしづくり）	A	・「はらこめし」の郷土料理体験を総合の学習の中に位置付け、それに携わっている人々の思いや願いなどにも触れることで関心を高めた。	坂元小
			A	・郷土料理体験は、町の食文化への関心を高め、食育やふるさと教育の観点からも非常に有意義であった。	山下小
			A	・郷土料理体験で、はらこめし・アラ汁・パプリカサラダづくりをすることで、町の食文化に関心をもち、知識を高めることができた。	山一小
			A	・郷土料理体験は地域の方に教えられ、地元の食文化を知ることのできるとても充実したものだだった。	山二小
			A	・小学5年生を対象に「郷土料理体験事業はらこめしづくり」として、調理体験を行い、地元の食材に興味関心をもってもらうことができた。	教総課

(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康診断、環境衛生検査等の実施	A	・養護教諭を中心に児童の健康状態を確認し、内科、歯科、耳鼻科、眼科等校医と連携して、確実に健康診断を実施している。	坂元小
			B	・学校保健計画に基づき、健康診断、環境衛生検査等を計画的に実施した。	山下小
			B	・学校保健計画に基づき、健康診断、環境衛生検査等を適切に実施した。	山一小
			A	・健康診断・環境衛生検査は完全実施。児童の虫歯（未処置率）が減少した。	山二小
			A	・計画的に実施した。郡の陸上大会や駅伝大会の練習参加者への健康診断や歯科検診後の指導などにも取り組んだ。	坂元中
			A	・計画的かつ適切に健康診断を実施できた。	山下中
			B	・一部校医の体調不良により6月中の実施ができなかった健診項目があったが年間を通して実施を完了できた。	教総課
		健康保持増進につながる日常的な指導、環境整備等	A	・「家庭の日」を設定し、家庭と連携した健康教育を推進したり、歯科医と連携して歯磨き指導を行ったりして、健康への理解を深めている。	坂元小
			A	・むし歯予防に向けた日常的な歯みがき指導、肥満対策として対象児の継続的体重測定等に取り組んだ。	山下小
			B	・季節や児童の実態に応じた日常指導を丁寧に実施した。また、家庭と連携し、児童の体温測定を実施し、体調管理を行った。	山一小
			A	・教室内の温度管理湿度管理を行い、冬季におけるインフルエンザの発症がほとんどなかった。	山二小
			A	・毎日の給食時に養護教諭、栄養教諭等が各教室を回り、日常的に指導に取り組んだ。	坂元中
			A	・養護教諭による健康相談等、放課後を活用し実施した。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	次期更新時（H33予定）に向けたI C T環境（タブレット端末）の検討・整備（MIYAGI styleの検討）	A	・保健便りを定期的に発行し、学校の様子や取組、家庭からの情報などを取り入れ、家庭との連携を図っている。	坂元小
			A	・毎月定期的に保健だよりを発行し、健康に関する情報発信を行うとともに、家庭への啓発を図った。	山下小
			B	・保健だよりの発行や保健室前の掲示により、健康への啓発を行った。また個人毎の連絡袋を活用し、プライバシーに配慮しながら、個別対応を行った。	山一小
			A	・保健だよりでは、毎月の保健目標に即したものを掲載し健康づくりに関して情報を積極的に発信した。	山二小
			A	・保健だよりを定期的に発行した。	坂元中
			A	・定期的にその時期に応じた内容を精選し、保健だよりで保護者への啓発を図った。	山下中
		学校保健会の開催等による学校医との連携	A	・体力運動能力テスト等から児童の体力についての検証や、校医からの学校課題に対する指導助言を現場に生かしている。	坂元小
			A	・年間計画に基づく学校保健会が開催し、指導事項を教育活動に反映するよう努めた。	山下小
			A	・学校保健会において、児童の実態や課題を踏まえて、学校医から適切な助言をいただくことができた。	山一小
			A	・年1回ではあるが、学校保健会を開催して学校医の先生方から指導をいただき、学校保健指導に生かした。	山二小
			A	・学校保健会や流行性の疾病が発生したときには、養護教諭が中心となり、学校医と連携した。	坂元中
			B	・学校保健委員会等で学校医との連携を図ってきたが、日常の連携方策の検討を要する。	山下中
		【その他の評価指標】児童生徒の肥満率や虫歯の保有率の改善傾向			肥満率（軽度・中等度・高度肥満の合計の割合）：H30 13.6% 虫歯保有率（未処置歯所有者数の割合）：H30 19.7%

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 開かれた学校づくりの推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の自律的改善	教育活動や学校運営の改善に向けて、学校評価、学校評議員制度等の活用・充実を図るとともに、保護者・地域住民の学校運営への参画を進める。	学校評価や学校関係者評価の充実	A	・学校評価アンケートでは、肯定的な回答が多く、意見や要望をまとめて公表し、PTA役員会との意見交換や職員間で共通理解して次年度の計画にも反映できた。	坂元小
			A	・学校評価や学校関係者評価、保護者や児童アンケートを実施し、教育活動の改善を図ることができた。	山下小
			A	・学校評価や学校関係者評価、保護者や児童アンケートを実施し、教育活動の改善につなげた。	山一小
			B	・学校評価の資料として保護者・児童へのアンケート調査を実施し、学校運営に生かすことができた。学校関係者評価は回収率が悪かったので、次年度の課題とする。	山二小
			A	・保護者及び生徒アンケート、自己評価の結果や学校評議員会の内容を学校運営に生かす体制を整えた。	坂元中
			B	・学校評価を数値化し、評価・検証を行うと共に、結果の公表を行った。	山下中
		学校評議員会の開催と学校運営等への反映	A	・年3回学校評議員会を開催し、学校や地域についての意見を交換し、公表するとともに、随時学校運営に生かすことができた。	坂元小
			A	・年間3回の学校評議員会を開催し、いただいた意見を学校経営に生かすよう努めた。	山下小
			A	・学校運営に関わる意見等を求めるため、学校評議員会を年2回開催した。	山一小
			A	・学校評議員会（サポート委員会）を年2回開催し、学校運営に関して様々な意見を求め生かした。	山二小
			A	・2回開催し、学校評議員の意見については必要に応じて校内で検討し、学校運営に生かすことができた。	坂元中
			B	・年間2回の評議員会を開催し、意見の集約に努めた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の 自律的改善	教育活動や学校運営の改善に向けて、学校評価、学校評議員制度等の活用・充実を図るとともに、保護者・地域住民の学校運営への参画を進める。	学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置	C	・学校運営協議会（コミュニティスクール）についての情報の収集や情報交換をする場面はあったが、個人としてのレベルに留まっていた。	坂元小
			B	・将来のコミュニティスクールを見越して、既存のサポート委員会の規約や構成メンバーなどの見直しを行った。	山下小
			N	・学校運営協議会は未設置	山一小
			N		山二小
			N		坂元中
			N	・未設置	山下中
			N	・協議会は設置しておらず、各学校において学校評議員制度を活用している状況である。 ・県内での協議会設置割合は、平成29年4月現在で2.6%と低い状況ではあるが、先進事例を参考に検討する。	教総課
	地域人材を活用し、教育活動の充実を図る。	専門的知識や技能を有する地域人材の教育活動への積極的な活用	A	・月2回ボランティアによる読み聞かせを行い、「楽しみにしている」と答える児童は多い。また、地域の特色に応じた学習も行っている。	坂元小
			A	・各学年の学習内容や学校行事の内容に合わせた外部講師や読み聞かせボランティアの活用を図り、学習効果を高めた。	山下小
			A	・学年の学習内容に応じた関係機関や地域の人材を活用し、専門的な知識や地域の様子を学ぶことができた。	山一小
			A	・教育活動に多くの地域人材を活用できた。	山二小
			A	・坂元おけさ体験やパークゴルフでの交流など、地域の方々においでいただいたり、地域での職場体験を実施したりした。	坂元中
			B	・関係諸機関や地域人材をゲストティーチャーとして招き、協働し生徒の指導にあたった。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校からの 情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを推進 するため、積極的に情報を発信す る。	学校だより、学校ホームページ等の充実と積極 的な情報発信	A	・定期的に学校だよりや安全だより、保健だより等で伝え たい情報を伝えたり、ブログなどで必要な時に情報発信し たりした。	坂元小
			A	・学校だよりの定期的な発行により、保護者や地域に対し て情報発信ができた。	山下小
			A	・学校だよりは、地域の方にも学校の様子を理解していた だくため、地区回覧を行っている。学校ホームページは適 宜更新し、情報発信に努めている。	山一小
			A	・学校だよりを地域にも発信している。また、ホームペー ジにも掲載している。ホームページの更新を適宜行ってき た。	山二小
			A	・学校だよりを定期的に発行し、それを地域に回覧板で回 したり、地元の郵便局や交流センターに掲示したりしてい ただき、地域への情報発信に努めた。	坂元中
			B	・学校ホームページの更新が不定期となり、情報の発信が 遅れた。	山下中
		学校行事やフリー参観等の実施による積極的な 学校公開	A	・参観日や行事等への保護者の参加率は高い。フリー参 観、祖父母参観を実施し、多くの人に実際の児童の様子を 見てもらっている。	坂元小
			A	・学習参観や学校行事、学年PTA行事を通して、積極的 に教育活動を公開した。	山下小
			A	・学習参観や学校行事、PTA親子行事等を実施し、公開 することで、教育活動の理解を図ることができた。	山一小
			A	・積極的に学校を公開し、保護者のみならず地域にも理解 を得られるようにしている。	山二小
			A	・フリー参観を実施したが、保護者の参観は少なかった。 文化祭やPTA行事については、多くの保護者や地域の方 々の参観や協力があつた。	坂元中
			B	・授業参観日を土曜日に設定し、多くの保護者の参加を得 ることができた。	山下中
【その他の評価指標】「学校の積極的な情報発信」に関する 保護者の評価（学校評価アンケート等から）					

(2) 学習環境の整備充実 **重点的事項⑤**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校施設の 計画的な改修	坂元小学校における校庭改良工事を実施する。	28年度実施設計、30年度施工（補助事業）	N	・平成29年度に完了。	教総課
	学校環境整備事業（学校敷地内除草）を実施する。	シルバー人材センター（業務委託）による学校敷地内除草を年2回実施	A	・各校2回ずつ学校敷地内除草を実施し、学校環境の改善を行った。	
	児童生徒の快適な学習環境を作るため、計画的に校舎等の整備改修を実施する。	学校長寿命化計画の策定	N	・学校再編の方向性を確認しながら、平成31年度に策定予定である。	
		老朽化した校舎の改修及びエアコンの整備・トイレ洋式化への切替（学校環境改善交付金の活用）	D	・平成30年度学校施設環境改善交付金に坂元小学校校舎大規模改修事業を申請し、不採択であった。 ・平成31年度以降の事業として再申請した。 ・小中学校のエアコンの整備については、平成30年度に実施設計を行った。平成31年度に工事を実施する予定である。	
教材教具の 充実	時代に即した学習教材等の充実を図る。	教科書採択に伴う指導書等の整備	A	・各学校に整備済みである。	教総課
		運動用具等の更新及び学校図書等の充実	B	・運動用具等については、毎年、新年度予算編成に併せ、学校と調整を図り、整備に努めている。 ・図書については、毎年クラス数に応じた予算を計上し、新刊購入費等に使用している。	
保護者の負 担軽減	子育てしやすい環境整備を図るため、各種助成制度や補助金等の創設・拡充を検討し子育て世帯の負担軽減を図る。	入学児童生徒の就学援助（新入学学用品）の前倒し支給	A	・平成30年度から実施済である。	教総課
		学校給食費の補助制度の検討・実施	A	・平成30年度に検討を実施し、平成31年度から実施することとした。	
		奨学貸付金の検討（給付型・免除制度等）	N	・現在検討段階である。	
		小学校入学祝い金の支給	A	・平成29年度から第3子以降の小学校入学者へ30,000円を支給する事業を開始し、平成30年度は対象者17人に支給を行った。	子育て 定推課

(3) 教職員を支える環境づくりの推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	教職員に対する健康診断事業の実施	A	・養護教諭を中心に、いろいろな健診を周知するだけでなく、個別に受診できる検診等のサポートをしている。	坂元小
			A	・教職員の希望により健康診断の受診日や場所を柔軟に対応できるよう努めた。また、再診を積極的に勧めた。	山下小
			A	・健康診断の確実な受診と結果による再診等を勧めることができた。	山一小
			A	・健康診断を行い、再検査が必要な場合には確実に受診させている。	山二小
			A	・全員が受検した。	坂元中
			B	・ドック等の検診についての情報発信を積極的に行った。	山下中
			A	・健診を予定通り実施し、教職員は何らかの健診を受診している。	教総課
		健康管理対策実施要領に基づく在校時間の把握と指導（タイムカードの導入検討）	A	・水曜日を定時退庁日として設定し、適正勤務を支援したり、適正勤務に向けて職員会議や打合せ等で周知したりして情報交換している。	坂元小
			B	・金曜日を定時退庁日に設定し、勤務時間の適正な管理に努めた。また、在校時間記録簿の提出により、勤務時間の把握を行い、時間外勤務の縮減を図った。	山下小
			C	・在校時間記録簿の提出により、適正な勤務時間に近づくよう指導している。業務内容や研修、出張など相対的な仕事量が減らない限り勤務時間は減少しない。会議や行事の持ち方を工夫し、時間を有効に活用させたい。	山一小
			B	・在校時間の記録は個人に任せ、月ごと提出させた。正確な把握のためにはタイムカード等の導入が必要である。	山二小
			A	・月毎に在校時間記録簿を提出させ、職員会議や朝の打合せ等で早めの帰宅について話した。	坂元中
			B	・在校時間記録の累積から勤務に関する実態を把握に努め、適宜職員への指導を行った。	山下中
			N	・平成31年度にタイムカード等を導入する予定	教総課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	労働安全衛生委員会の設置	B	・職員の在校時間を把握し、学校としての傾向や個々の職員の動向に対する対策を考えることができた。また、校務が個人に偏らないように注意している。	坂元小
			B	・規程に基づき労働安全衛生委員会を開催した。協議された内容については職員と共有し、改善を図るよう努めた。	山下小
			B	・学校安全衛生委員会において、教育活動や勤務状況について振り返り、行事や会議の精選、要録の電子化等を行ってきた。	山一小
			B	・働きやすい労働環境を目指し、できる範囲で対応することを心掛けた。	山二小
			N		坂元中
			N	・未設置	山下中
			D	・各学校において、設置している学校もあるが、教育委員会としては設置出来ていない。	教総課
		学校給食費の集金方法の見直し	A	・地区担当者が学校給食費を集金し、納入する方式が根付きつつある。入金事務までは担任外が行い、負担軽減が図られている。	坂元小
			B	・全ての集金は口座振替となっている。集金方法については現状のままで良い。 ・未納者に督促を行い、最終的に全納いただくことができた。	山下小
			N	・学校集金は児童を介して行っており、現在の所、見直しを図る予定がない。	山一小
			N	・見直しは行っていない。	山二小
			A	・集金方法はそのままに、集金日の直前に保護者にメールを送るなど、確実に集金ができるように工夫した。	坂元中
			D	・共同調理場の会計担当校としての業務が煩雑で業務多忙となっている。公会計への早期切り替えを強く望む。	山下中
			D	・事故防止の観点から、集金方法の改善（公会計化）を検討しているが実施に至っていない。令和2年度からの公会計化に向け、準備を進めていく。	教総課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	行事や会議等の精選及び業務の効率化	A	・全体で行う会議を精選し、主任者や担当者、部会等の少人数会議による時間短縮を実施し、効率化を図っている。	坂元小
			B	・学校評価等での反省を基に、学校行事の精選や会議内容の見直し・時間短縮に努めてきた。	山下小
			B	・学校評価において、教育活動や勤務状況について振り返り、行事や会議の精選、要録の電子化等を行ってきた。	山一小
			B	・更なる効率化が求められている。	山二小
			A	・行事の精選は難しかったが、会議では効率的な運用がなされるよう意識しながら行うことができた。	坂元中
			C	・学校の現状から、行事の精選は難しい状況にある。	山下中
学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実により、教員の負担軽減、学校事務の効率化、学校運営支援を図る。	学校事務の共同実施に係る指導支援	B	・各学校事務職員が連携することにより新規採用職員や本町が初めての職員が配置された場合もスムーズに事務を行うことが出来ている。 ・事務官で組織する委員会を定期的に開催しているが、今後、いかに教職員の負担を軽減していくかが課題である。	教総課
		各校における共同実施に関する理解促進と協働体制の確立	B	・共同実施における共通認識の共有や各学校の事務処理が同一歩調でできたことで、初任者の負担の軽減につながっている。	坂元小
			B	・学校事務支援室が効率的に運営されており、情報の共有化が図られたことで、事務負担の軽減につながっている。	山下小
			B	・学校事務共同実施に関する教職員の理解は広がっている。	山一小
			A	・共同実施によって各方面で効率化が浸透し始めている。	山二小
			A	・教職員に共同実施のプリントを配付したり、会議などでの啓発に努め、共同実施への理解が進んでいるものと思う。	坂元中
		B	・教員の負担軽減となる事務処理等具体的な取組が見えづらい。	山下中	

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
親の「学び」と「子育て」の支援	子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供する。	子育てサポーターの養成	A	・子育てサポーターリーダー、子育てサポーター養成講座について各4回の講習に参加し5名が資格を得た。養成講座の実施が令和2年度までとなるため、養成講座の実施について検討することが必要である。	生涯学習課
			B	・サポーター、サポーターリーダー養成に向け、人材の発掘、研修参加への支援を行った。	子育て定推課
		家庭教育支援チームの活動支援	A	・月1回の定例会開催補助により、チーム運営の方向について情報共有した。主催事業（6月、2月）の開催により、チーム員の主体性向上を図った。	生涯学習課
			B	・こどもセンターを中心とした活動拠点の整備、維持管理に努めた。	子育て定推課
		子育てサークルの活動支援	A	・会員主体の会運営を目指しながら、活動支援にあたった。親子の愛着形成、子育ての交流、同世代の幼児間の友達づくりを進めた。	生涯学習課
			B	・こどもセンターを中心とした活動拠点の整備、維持管理に努めた。	子育て定推課

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑥**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	評価	成果と課題	担当課 学校等
地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域学校協働本部の設置に向けた要綱の作成、人材の確保、本部の組織化と運営	A	・山元町地域学校協働本部設置要綱の設置及びコーディネーター委嘱を実施し、具体の検討を行った。また社会教育委員の会議において報告を行った。なお、学校との連携調整についてマニュアル化が必要である。	生涯学習課
		地域人材を活用した学校教育活動の支援	B	・地域の関連団体との連携により学習することができた。また、体力運動能力テストや持久走大会の支援も職員数の観点から効果的だった。	坂元小
			A	・学校支援コーディネータの支援により、地域人材を活用した教育活動が展開でき、学習効果が高まった。	山下小
			A	・本の読み聞かせは、地域ボランティアのみなさんが実施し、学校農園の準備、指導を区長さんをお願いするなど、地域の人材を活用して学校との連携を深めている。	山一小
			A	・協働教育として地域人材活用に関して支援をしていただいた。	山二小
			A	・総合的な学習の時間において、職場体験、保育体験、坂元おけさ体験など地域と協働して学習を展開することができた。	坂元中
			B	・家庭科でのミシン学習や浴衣着付け学習で、地域の方に来校して指導していただいた。	山下中
			A	・学校のニーズを把握しながら、地域人材の力を借り、学校支援に当たることができた。	生涯学習課
	放課後子ども教室などの活動を通じ、児童生徒の人間形成を図る。	放課後子ども教室活動の充実	B	・ボランティアスタッフの協力により、放課後子ども教室（はまっこキッズは年28回、みやまっこクラブは年25回）を開催した。事業の内容によって子どもたちの取組み姿勢が違うため、事業の工夫が必要である。	生涯学習課

(3) 子どもたちの体験活動の推進 重点的事項⑦

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）の実施	B	・児童の地域交流や世代間交流への呼びかけや休日の参加がとて難しくなっている。	坂元小
			B	・社会科や生活科、総合的な学習の時間において、地域の自然や文化財及び地域の人材を活用した教育活動を行った。	山下小
			B	・生活科及び総合的な学習において、地域及び地域の人材を活用した教育活動を行った。	山一小
			B	・やまもと楽校には初任者研修の一環として本校職員が指導側として参加させていただいた。	山二小
			A	・地元の敬老会とグランドゴルフを行い、世代間交流を行った。	坂元中
			B	・家庭科の保育学習で、つばめの杜保育所に協力していただき、幼児との交流を行った。	山下中
			A	・「子どもも大人もみんなで遊び隊」、「やまもと楽校」での地域活動により、幅広い年齢層での交流や学びの循環につなげることができた。	生涯学習課
		地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導	A	・地域の伝承、文化に携わっている地域人材から直接指導をいただき、坂元子供神楽や子供おけさ等、地域を知る活動として実践している。	坂元小
			B	・生活科での町探検や総合的な学習の時間での地域の産業・郷土の開発・防災教育などに取り組んだ。	山下小
			B	・上に同じ（町探検・地域の産業・郷土の開発・防災教育）など	山一小
			A	・総合的な学習を中心に、各教科において学校と地域とが連携した教育活動が行われた。	山二小
			A	・職場体験学習において、地域の企業等でご指導をいただいているとともに、地域の方々においでいただき、地域の伝統芸能である坂元おけさの体験学習を行った。	坂元中
			B	・2学年の職場体験学習で、町内を中心に20以上の企業に受け入れていただいた。	山下中
			A	・地域人材の専門性を生かした学校での事業展開や多くの人材による見守り活動を進めることができた。	生涯学習課
県事業（みやぎ県民大学等）を活用した青年活動の活性化支援	B	・山元の若い世代を中心に実行委員会を立ち上げ、5回の委員会において「音楽の郷やまもと」を開催し100名の参加があった。	生涯学習課		

(4) 家庭教育の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
基礎学力の 定着	「山元の子ども3つの約束」の活用 「家庭学習の手引き」の共有と家庭 学習の充実を図る 「はやね・はやおき・あさごはんが んぱりカード」を使用した児童と保 護者への啓発活動を行う。	基本方向1に記載	B	・「山元の子ども3つの約束」については下敷き・クリア ファイルを配付すると共に、各学校で継続的に意識化を図 る指導を行い、充実策の共有化を図った。下敷きは前年度 に発注したもののだが、完全なプラスチック製でなかったた め、耐久性は完全ではなかったことが課題である。「はや ね・はやおき・あさごはん」や家庭学習の推奨については 各校で啓発活動を行った。	教総課
家庭教育推 進事業	協働教育の一環として、家庭教育学 級や家庭教育関連事業の充実を図る とともに、親子のふれあいの機会を 拡充し、家庭と地域、学校、行政が 一体となって家庭教育の活性化に努 める。	家庭教育学級・幼児学級の開催	A	・来年度の就学児童や保護者との連携が強まり、児童の実 態の把握や保護者の不安の解消につなげることができた。	坂元小
			A	・年間3回実施し、児童の実態把握や保護者同士の交流な ど、効果的に実施された。	山下小
			B	・親子のふれあいの時間や学校への理解を深めるため、幼 児学級は有効であった。	山一小
			B	・年3回の開催があった。家庭教育学級は行政、幼児学級 は学校と分担して取り組めた。	山二小
			B	・スマホなどを利用するときの留意事項などについて、保 護者と生徒と一緒に学ぶ機会をつくった。	坂元中
			B	・保護者と生徒と一緒に学校敷地内の除草作業を行った。	山下中
			A	・小学校4校において計12回開催した。また、町家庭教 育支援チームが講師となって「親のみちしるべ」ワーク ショップを開催した。	生涯 学習課
		家庭教育講座の開催	A	・「ちびっこひろばキラリ」において親子ヨガや民話の読 み聞かせを行った。6回の開催で90家庭191人の参加 があった。	生涯 学習課
親子ふれあい事業の開催	B	・課後子ども教室の在籍児童と保護者で夏休み親子クッキ ング教室を開催した。			

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

(1) 伝統・文化の尊重

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝統・文化の理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むため、地域に伝承する文化財等に触れ親しむ機会を提供する。	各教科等での指導を通じた日本の歴史や文化を尊重する態度の育成	B	・社会科や生活科の校外学習等とおして、いろいろな地域に住む人々の生活や文化があることを知り、そこでの様々な地域の結び付きに気付くことができた。	坂元小
			B	・主として高学年社会科において、学習指導要領のねらいに基づいた指導を展開した。本町と修学旅行先の会津若松市を比較・検討することで、地域の特性に気付くとともに大切しようとする心情を高めることができた。	山下小
			B	・教科等の学習により、日本の歴史や文化に対する理解を深め、尊重しようとする態度を育むことができた。	山一小
			B	・社会科・道徳を中心に態度を学んだ。	山二小
			B	・道徳科や社会科を中心として、歴史や文化を学びながら、それらを尊重する態度を育成した。	坂元中
			B	・体育の武道の学習において、日本固有の礼法や歴史についての学習を行った	山下中
		(小学校) 社会科副読本の改訂版作成と配布 (平成32年度改訂、配布)	A	・副読本の編集委員が中心となり、改めて故郷の良さに気付き、それを職員間で共有したり、児童とどのように結びつけるかを考えたりすることができた。	坂元小
			B	・主として中学年において活用を図ることができた。 ・新学習指導要領のねらいや地域の実情に合わせた副読本の編集に向けて活動中である。	山下小
			A	・平成32年度の改訂版発行に向けて副読本の構成と資料収集について活動を進めている。	山一小
			B	・改訂版発行に向け執筆が行われた。	山二小
			B	・副読本編集委員会2年目となり、担当校による取材活動が実施され、地域の伝統や文化財等に関する内容の吟味を進めた。	教総課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝統・文化の理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むため、地域に伝承する文化財等に触れ親しむ機会を提供する。	歴史民俗資料館に収蔵されている地域の歴史資料等を活用した歴史授業の実施	B	・3学年の学習内容と関連付けて資料を活用し、資料等の内容や効果的な活用方法の理解不足により授業に活用することが難しかった。	坂元小
			B	・主として中学年において活用を図ることができた。 ・新学習指導要領のねらいや地域の実情に合わせた副読本の編集に向けて活動中である。	山下小
			B	・地域学習において歴史民俗資料館や伝承館を見学することで、町の歴史や文化に関心を持ち、理解を深めることができた。	山一小
			A	・線刻壁画の収蔵により歴史の学習としてより活用しやすくなった。	山二小
			B	・歴史資料を活用した授業はしていないが、地域の方に、地域の歴史について話をしていただいた。	坂元中
			N	・利用無し	山下中
			B	・今年度リニューアルした歴史民俗資料館に展示された合戦原遺跡「線刻壁画」をはじめとした展示物を活用し、歴史授業の一環として見学会を実施した。	生涯学習課
		A	・「こども神楽」や「子どもおけさ」の伝承を通して思いや願いを知り、発表したり地区民と交流したりすることができた。	坂元小	
		N		山下小	
		B	・学習発表会で児童がぶち合わせ太鼓を披露し、郷土の誇りや愛情を育むことができた。	山一小	
		A	・山二輪太鼓・笠浜甚句・花釜音頭等伝統文化を学ぶ授業を行った。	山二小	
		A	・1年生は坂元おけさを体験し、文化祭で発表した。	坂元中	
		N	・活用無し	山下中	
		B	・今年度初めて実施の「伝統伝承芸能まつり」において、会場の提供やチラシの印刷等を行い、地域の伝統芸能の継承活動を支援した。	生涯学習課	

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝統・文化の理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むため、地域に伝承する文化財等に触れ親しむ機会を提供する。	地域と関わる活動や体験の推進	A	・地域の特産物から地域の特性を知り、「いちご」や「りんご」、「はらこ飯」等の食文化や校外学習による体験活動に学習への深みを感じられるようになった。	坂元小
			A	・地域の特産物であるイチゴやリンゴの学習を通して地域理解を深める一助としている。 ・みやまフェスティバルを開催し、地域の方々を招き交流している。	山下小
			B	・農作業を進めたり、読書への関心を高めたりするために地域のボランティアと連携することができた。	山一小
			A	・地域の郷土料理「はらこ飯作り」など体験的な活動を取り入れた学習を推進した。	山二小
			A	・坂元おけさ体験や敬老会とのグランドゴルフ交流会を地域の方々を招いて行った。	坂元中
			B	・ふれあい産業祭にボランティアとして協力参加した。	山下中

(2) 国際理解を育む教育 **重点的事項⑧**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	各教科等での指導を通じた異文化理解とそれを尊重する態度の育成	A	・社会科や外国語活動の中で世界の国々の暮らしや文化、日本とのつながりを学び、ALTの母国の異文化などに触れることができた。	坂元小
			B	・外国語活動や総合的な学習の時間を活用して、外国の歴史や文化への理解を深め、交流しようとする意識を高める指導を行った。	山下小
			B	・特に高学年の教科等の学習により、他国の歴史や文化に対する理解を深め、尊重しようとする態度を育むことができた。	山一小
			B	・外国語活動を通して行っている。	山二小
			B	・道徳科や英語科を中心として、異文化理解や多様性の尊重についての指導に当たった。	坂元中
			B	英語科だけでなく、社会科や道徳などでの指導により異文化の理解と尊重する態度を育てた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	地域人材やALT等を活用した交流（体験）活動の推進	B	・ALTとのインタビューゲームやハロウィン、クリスマス等の日本との文化の違いについて知ることができた。地域人材との交流による学習はできなかった。	坂元小
			A	・ALTやJETと積極的な交流が図られ、児童の異文化理解につながった。	山下小
			B	・外国語活動を全学年で行っており、ALTと学習することにより、国際理解が進み、コミュニケーション能力を身に付けてきた。	山一小
			A	・ALT、JETを活用した外国語活動の教育が十分に行われた。	山二小
			A	・ALTを活用し、英語の授業だけではなく、様々な場面で生徒との交流を図った。	坂元中
			B	・語暗唱弁論大会の指導等でALTを積極的に活用した。	山下中
		小・中学校へのALTの配置と活用	A	・ALTが適正に配置され、学習に興味をもてるような手立てや指導計画をもとに外国語指導補助員と分担して学習効果をあげることができた。	坂元小
			A	・年間を通して計画的に配置されている。 ・ALTとの関わりにより、児童が刺激を受け、コミュニケーション能力の向上につながっている。	山下小
			A	・ALTと共に外国語指導補助員も配置されており、子どもたちは楽しんで外国語活動に取り組んでいる。	山一小
			A	・週1回ではあったが、効果的に活用できた。	山二小
			A	・配置され、活用した。	坂元中
			A	・通常の授業では、英語教員との事前打ち合わせを十分にを行い、効果的な授業実践を行った。	山下中
			A	・小・中に各1名のALTを配置し、外国文化の理解も含めた外国語教育を円滑に進めることができた。	教総課
		新学習指導要領に対応するため小学校への外国語指導補助員の配置と活用	A	・ALTと合同で授業をつくることで、役割分担による相乗効果が生まれ、学習効果をあげることができた。	坂元小
			B	・外国語指導補助員の配置により、指導がさらに効果的に展開されている。	山下小
			A	・外国語指導補助員の配置により、外国語活動の打合せが短時間でできる。ALTとの連携もとてもよい。	山一小
			A	・JETによりALTがいない場合でも効果的な指導が行われた。	山二小
			A	・小学校4校へ1名の補助員を配置したが、配置校教員やALTとの密な連携により児童の意欲を引き出す外国語の指導がなされた。	教総課

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
生涯学習・ 文化芸術の 振興	生涯学習関係機関並びに文化芸術団体等と連携を図り、生涯学習・文化芸術に身近に親しむ機会を提供する。	町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報提供	B	・ホームページを活用した各団体の発表会等の情報提供について実施数が少なかった。各団体への周知、情報収集が今後の課題である。	生涯 学習課
		国や県の事業（巡回小劇場等）の積極的な活用	B	・本物にふれさせるため、県の事業である演奏会を企画し、実施した。ただ、事前、事後と事務手続きで課題が見られた。	坂元小
			B	・歌声の魅力コンサートに応募・当選し、無償で本物の声楽やピアノ演奏に触れることができ、情操を深めることができた。	山下小
			A	・宮城県青少年劇場でチェロとバイオリンの小劇場を行っていただいた。児童は興味深く聴いていた。	山一小
			B	・巡回講演として演劇集団「円」を招き楽しい演劇を見せていただいた。毎年無料の事業を探すことが負担になっている。	山二小
			N	・活用していない。	坂元中
			B	「地球のステージ」を依頼し講演した。	山下中
			A	・坂元中学校、山下第一小学校を会場に宮城県青少年劇場小公演「ヴァイオリンとチェロの演奏会」を実施した。	生涯 学習課

(2) 文化財の保護と活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
文化財の保存・保護	各種文化財の適切な保存・展示及び活動場所の環境整備に努め、文化財保護の普及・啓発を図る。	文化財標柱の更新等	B	・2ヶ所（犬塚遺跡、狐塚遺跡）の文化財標柱更新を行った。標柱更新については毎年2ヶ所ずつ実施することとしている。	生涯学習課
		社会科副読本の作成（掲載検討・指導）	B	・編集委員が中心となり、児童が故郷の良さや特色を感じられるような教材や学習を深められる画像等を協力しながら検討することができた。	坂元小
			B	・主として中学年において活用を図ることができた。 ・新学習指導要領のねらいや地域の実情に合わせた副読本の編集が進行中である。	山下小
			B	・平成32年度に向けて副読本の構成と資料収集について話し合った。基本方向5の（1）伝統・文化の尊重の2項目と同じ	山一小
			B	・副読本作成に向けて新たに載せた方がよい内容等、話し合いが行われた。	山二小
			B	・編集委員会で検討し担当校で掲載誌面の原案づくりを進めた。	教総課
		無形文化財伝承団体に対し、関係する機関や団体等が開催する発表会等の情報提供	B	・無形文化財伝承団体に対し、福祉まつりや資料館リニューアル、町民文化祭での出演依頼を行い、発表の機会の提供を行った。	生涯学習課
町指定文化財「茶室」とその周辺の活用方法等の検討	A	・山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会を設置し委員8名の委嘱を行った。検討スケジュール等を整理した。			

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑨**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
社会体育施設の整備・充実	競技人口の推移を見据えた長期的な視点での活用計画を検討する。	町民グラウンドの復旧及び備品等の整備	A	・利用関係団体への要望等の調整を行い、グラウンドの復旧、備品等の整備を実施した。	生涯 学習課
		町民グラウンドの機能拡張を図るための計画・設計	A	・定期利用団体と意見交換を2回行い、コート配置や施設整備など、要望を取り入れた設計を行った。	
	体育文化センター等の施設の修繕及び器具の更新を計画的に実施する。	スポーツ振興くじ等を活用した運動器具の更新	B	・スポーツ振興くじ助成を活用しトレーニング器具3台（ヒップアダクション、ランニングマシン、プーリー）の更新を行った。トレーニング室の面積や器具の荷重に制限があるため、計画的更新が必要である。	

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校施設の 開放推進	社会体育施設と緊密に利用調整を行い、各施設の効果的な利活用を図る。	利用調整を図るための関係団体間の定期調整会議の開催	A	・利用団体の責任者が学校の地域人材や保護者になっているため、学校中心に利用団体相互の関連が取れている。	坂元小
			N		山下小
			B	・利用調整を図るほど活用していない。よって定期調整会議も開催する必要がなくスムーズに利用していただいている。	山一小
			D	・関係団体との定期調整会議は行われていない。情報交換を多く行い、共通理解を図るようにしている。	山二小
			N		坂元中
			N	開催無し	山下中
			B	・各学校にて事前調整のうえ、申請を受け付けており、現在のところ混乱なく調整が実施されている。	教総課
			B	・定期利用団体に対し町民グラウンド及び町民体育館の利用調整を行った。利用調整の中での意見により、町民と町民以外の利用について差別化を図るため、規則等の改正等を行った。	生涯 学習課
		効率的かつ効果的な利活用の促進	A	・定期的に利用する団体と不定期で行う日の調整等、連絡を取り合って問題なく活用している	坂元小
			B	・学校の校庭や体育館は計画的に開放し、利用されている。 ・2月頃に、次年度利用登録団体との顔合わせを兼ねた会議があるとよい。	山下小
			B	・スポーツ少年団に水曜日と土曜、日曜を校庭や体育館を利用してもらっている。	山一小
			B	・定期利用の団体は決まっている。それ以外のものにも対応している。学校施設開放を学校が担わなくてはならないだろうか。	山二小
			N		坂元中
			A	・体育館は、バスケットボール（ミニ、中学生、一般）、剣道、空手の各団体で、ほぼ毎日利活用されている。	山下中
			B	・各学校において、施設の効率的かつ効果的な利活用について促進に努めている。	教総課
			B	・社会体育施設の定期利用団体調整会議を実施し、利用者の意見を踏まえ（規則改正実施）、効果的な利活用に努めた。	生涯 学習課

基本方向7 防災教育をととした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑩**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	計画に基づいた総合的な学習、各教科等での防災教育の推進	A	・年間10時間を総合的な学習等の中に位置付けるとともに、避難訓練等の学校行事とも関連させながら、系統立てて実施している。	坂元小
			B	・学校防災マニュアルを整備するとともに、総合的な学習の時間に防災教育を年間10時間位置付けている。	山下小
			A	・前年度の反省を生かして防災教育計画を見直し、防災学習を積み重ねることができた。	山一小
			A	・中浜小学校の見学、防災施設としてのひだまりホールの見学等新たな活動が増え更に充実した。	山二小
			A	・避難訓練や避難所開設訓練を計画的に実施した。	坂元中
			B	・教科ごとに計画を見直し、実施率も上がっている。	山下中
		みやぎ防災教育副読本や町社会科副読本等を活用した指導の充実（小学校H 32～）	A	・みやぎ防災教育副読本「未来への絆」を総合的な学習の時間の年間指導計画に位置付け、防災教育を推進している。	坂元小
			B	・防災教育年間計画に位置付けて、総合的な学習の時間や学級活動などで指導を行った。	山下小
			B	・みやぎ防災教育副読本は、教育計画に位置付けられ防災教育の中で活用している。	山一小
			C	・防災副読本の活用実績が少なくなってきたので、継続して活用していきたい。	山二小
			A	・防災についての学習時に使用した。	坂元中
			B	・各教科等でも活用している。	山下中
			B	・副読本改訂作業に当たって新学習指導要領に盛り込まれている防災や震災からの復旧・復興を反映したページ構成で編集作業を推進した。	教総課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	校内における避難訓練の実施など	A	・教師主導型の避難訓練だけでなく、避難ルートの確認や「落ちてこない・倒れてこない・動いてこない」が判断できるような訓練も実施している。	坂元小
			A	・避難経路確認、地震・津波・火災想定避難訓練の他、防犯訓練・一斉下校訓練・引き渡し訓練等を計画に基づき実施した。	山下小
			A	・計画どおり防災訓練等を実施した。事前・事後指導やショート訓練等も行い、児童の意識を高め、確実に行動できるよう指導してきた。	山一小
			A	・教育計画に基づき各種訓練を実施した。実施後に改善点を話し合い次回につなげている。	山二小
			A	・計画的に実施し、生徒は一生懸命に参加するなど、防災への意識を高めた。	坂元中
			B	・日程に変更等はあるが、計画通りに実施できている。	山下中
	宮崎市との交流事業により、防災意識の高揚を図る。	隔年で相互訪問	A	・宮崎市から生徒を受け入れ、交流する中で防災に対する意識を更に高めた。	坂元中
			B	・学校としては、無事に受け入れることができた。特に、訪問にかかわりの深かった生徒は意識も高まったと思う。	山下中
			A	・平成30年度は宮崎市の中学生を本町で受け入れ、震災当時の様子、学校の防災の取組等を発表し両市町生徒の防災意識を高めることが出来た。	教総課
	町施設を活用した防災学習を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設での防災学習	B	・低学年の町探検等での施設見学に加え、高学年の見学も実施した。年度途中であったが教育課程に位置付けて学習を進めることができた。	坂元小
			B	・町防災拠点施設の山下地域交流センター「ひだまりホール」で見学・体験学習を行った。	山下小
			B	・山元町防災拠点・山下地域交流センター「ひだまりホール」に行き、見学や学習をする機会を設けた。	山一小
			A	・計画に基づき、防災施設としてのひだまりホール内の見学と防災学習を行った。	山二小
			D	・活用していない。今後、活用について検討する。	坂元中
B			防災拠点施設山下地域交流センター「ひだまりホール」の機能を周知し、次年度の見学計画を立案した。	山下中	
A			・地域住民と子どもたちが共に防災・減災の知識を深め、地域防災力の向上を図るよう防災エンスショー、防災スタンプラリーを開催した。	生涯学習課	

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	町施設を活用した防災学習を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	防災キャンプの開催	A	・小中学生の児童生徒を対象に山元町防災拠点・山下地域交流センターで防災キャンプを開催した。	生涯 学習課
		避難所体験事業の開催	B	・小中学生、大学生および一般の見学者を対象に、備蓄倉庫等、施設の案内やマンホールトイレ設置等の体験を行った。	

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	・学校及び幼稚園・保育所・町危機管理室等による防災担当者会の開催とその充実	A	・定期的に町の防災対策や地域連携について意見交換ができていることはよかった。ただ、防災の担当者が入れ替わり難しい状況もある。	坂元小
			B	・防災主任を中心に関係機関との連携や情報交換がなされ、校内で共有している。	山下小
			B	・防災担当者会の開催により、情報を共有するとともに関係機関と連携しながら防災教育について考えることができた。	山一小
			A	・防災担当者会が開催され、関係諸機関との連携がとれた。	山二小
			B	・担当者が参加し、校内で情報を共有した。	坂元中
			A	・町総合防災訓練の準備等の連携や、研修等充実した内容となった。	山下中
			A	・定期的に防災担当者会に出席し、児童・生徒参加型の防災訓練について協議し、連携を図ることが出来ている。	教総課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	・学校と各地区自主防災会との連携による防災体制の確立	B	・区長や学校評議員会、地区の見守り隊等の定例会で防災について意見交換することはできている。有事に実際の連携が取れるかどうかには不安がある	坂元小
			B	・町総合防災訓練では、各地区で計画された訓練に児童とともに参加できた。また、地区の中での児童の動きについて確認できた。	山下小
			B	・町総合防災訓練では、各地区に先生方を配置し、児童の様子を確認しながら訓練に参加することができた。	山一小
			B	・各地区主体となり行われた。児童の訓練参加の様子について確認した。	山二小
			A	・町の総合防災訓練では、教員が生徒と一緒に各地区の防災訓練に参加し、連携を深めた。	坂元中
			B	自主防災会と連絡を取り、生徒の訓練参加の様子を確認した。	山下中
			N	・各学校単位での連携となっている。教育総務課主体での各学校と地区防災会を連携させる会議等は実施していない。	教総課
児童生徒の防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	・学校を登校日とした町総合防災訓練への参加(居住地域ごとの避難訓練及び研修)	B	・登校日を設定し、居住地ごとに地区の訓練に参加して、訓練もすることができた。ただ、地区ごとに行う是非も含め、浸水区域の避難場所設定も指導に悩む。	坂元小
			B	・登校日とすることで、親子で参加し、防災への意識を高める契機となっていると感じられる。定着させるために継続した取組が必要である。	山下小
			B	・登校日とすることで、家族で地域の訓練に参加する児童が多かった。回数を重ねることで、町総合防災訓練についての理解が深まっている。	山一小
			A	・登校日としたことで、児童はいずれかの形で訓練にさんかしていた。	山二小
			A	・登校日として参加し、地域の一員として様々な体験などに取り組んだ。	坂元中
			A	・事前の計画を立て、学校としても積極的にかかわることができた。	山下中
			A	・学校を登校日とすることで、児童生徒が参加する環境を整えることで、災害発生時の対応力を身に付けさせることに繋がっている。	教総課
A	・児童、生徒が参加することにより、避難行動の意識付けが図られている。さらに、高学年児童及び生徒にあっては、有事の際の避難所等における自分の役割に対する理解も深まってきており、地域においても即戦力として期待されており、活躍が地域から評価されている。	総務課			

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
児童生徒の 防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	・地域で行われる自主防災訓練への積極的な参加の呼びかけ	B	・地域の自主防災訓練は少ない状況ではあるが、県、国の防災関連の行事など日常的な指導に取り入れている。ただ、原子力やJアラート等の対策の確認が課題である。	坂元小
			B	・自主防災訓練の日程や内容について把握し、災害発生時の地域の動きを知るために、積極的に参加するよう働き掛けていく。	山下小
			B	・地域で行われる自主防災訓練について把握し、災害発生時の対応力を高めるために参加し、学ぶ必要性があることを継続して指導する。	山一小
			A	・積極的な参加がうかがえた。	山二小
			B	・地域で行われる行事については、参加の呼びかけを行った。	坂元中
			B	地区で行われる行事への参加を呼びかけた。地区担当教員が訪問し、一緒に活動した。	山下中

(3) 震災遺構の活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成30年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
旧中浜小学校震災遺構 保存活用事業	東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、後世に防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構」として保存・活用を図る。	震災遺構としての整備・保存	A	・震災当時の教員や語りべの会など、関係者への意見を改修設計や展示内容に反映させ、見学者の安全確保に配慮した設計を行った。	生涯 学習課
		防災教育としての活用	A	・現地に説明板を新設し、一般見学者に配慮するとともに、語りべの会と連携し、積極的に視察者を受け入れた。	生涯 学習課

点検評価の集計

担当学校等	評価項目数	A		B		C		D		N	
		項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%
坂元小学校	72	51	70.8	20	27.8	1	1.4	0	0	0	0
山下小学校	72	29	40.3	40	55.5	0	0	0	0	3	4.2
山下第一小学校	72	36	50	32	44.4	2	2.8	0	0	2	2.8
山下第二小学校	72	45	62.5	23	31.9	1	1.4	1	1.4	2	2.8
坂元中学校	67	46	68.6	13	19.4	1	1.5	1	1.5	6	9
山下中学校	67	14	20.9	45	67.2	2	3	1	1.5	5	7.4
教育総務課	43	17	39.5	15	34.9	0	0	3	7	8	18.6
生涯学習課	34	19	55.9	14	41.2	0	0	0	0	1	2.9
総務課	1	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て定住推進課	5	1	20	4	80	0	0	0	0	0	0
合 計	505	259	51.3	206	40.8	7	1.4	6	1.2	27	5.3

IV 学識経験者の意見書

◇ はじめに

東日本大震災から9年目を迎え、その間に山元町子どもセンター、山下第二小学校、山元町防災拠点・坂元地域交流センター、同・山下地域交流センターなどが完成し、教育環境のハード面は着実に整備され、新たな街並みもつくられるなど本町の復興は順調に進行し、各学校における教育活動もしっかりと実施・運営されている。

また、平成29年3月には「山元町教育振興基本計画」が策定され、本町における教育振興を総合的かつ計画的に進めるとともに重点事項を中心に実践的な取組が開始されている。

しかし、これまでも指摘したことではあるが、阪神・淡路大震災等の大規模な被災地域においては児童生徒の生徒指導上の問題が長期にわたるなど様々な課題が報告されている。このことについては後述するが、本県においても中学生等の深刻な「いじめ問題」や「不登校」の状況が発生していることから、本町においても常に課題意識を持って日々の教育活動に取り組んでいかなければならない。

また、本町においては児童生徒の学力の向上についても大きな問題意識を持って取り組んでいく必要がある。

今年度も意見を述べる機会をいただいたので、平成30年度の取り組みと成果を見ていくとともに幾つかの事項についてささやかな提言をしたい。

1 教育委員会の活動について

教育委員会制度の改正に伴い、教育委員長と教育長を一本化した教育長のリーダーシップの下に課題に迅速に対応できるようになった。「定例会」、「臨時会」、「山元町総合教育会議」、「教育委員による教育機関訪問」がそれぞれ適正に実施され、所定の事案等が適正に審議、処理されている。

2 教育関係経費決算の状況

教育関係経費が適正に正確に執行処理されていることが明確である。国民の貴重な税金が使われていることを改めて肝に銘じて、教育行政と教育活動にあたっていただきたい。

なお、子どもの貧困問題が大きな社会問題となっている状況下において「就学援助事業」については細心の注意を持って積極的に運営されることをお願いしたい。

3 学校教育の充実

(1) 小・中学校再編検討について

小・中学校の再編等について、小学校は「10年後を目途に1学校区」、中学校については「2021年4月を目途に山下中学校を活用して1学校区」との再編方針が決定されているが、再編までハード・ソフト両面から入念な準備が必要である。

また、今後の本町の人口動態を注視しながら弾力的な対応についても準備していく必要がある。筆者は高校の再編・統合に取り組んだ経験があるが、再編・統合に

は多大な労力と多方面からの支援と協力を要する大きなプロジェクトであった。

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

本町では平成 31 年 1 月 30 日にいじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめ防止対策について協議が行われた。30 年度においては 6 件の認知とのことである。学校と保護者が連携して指導にあたり、3 件が解消し 3 件は継続指導中とのことである。重大な問題が発生していないことは高く評価したい。今後とも迅速・丁寧な対応により、全ての児童生徒が「いじめのない学校」で安心して学校生活をおくっていくことを願っている。

(3) 学力向上に向けた教育講演会について

教育指導力向上を目的として小中学校の教員を対象とした研修会をこころの相談研究所 所長 望月 晃二様を講師として開催された。さらに同日に山下中学校 滝深 潔教諭からプログラミングに関する講演が実施され、本町の教育職員約 80 名の参加があったことも評価したい。

(4) 学校給食の概要について

社会環境と家庭環境の変化、多様化による様々な課題が社会問題化している中で、学校給食の果たす役割は大きくなっている、様々な課題に対応しながら安定的な学校給食が維持されていることには敬意を表したい。また、本町には栄養教諭が配置されていることにより、食育の面から大きな教育効果を期待している。

4 生涯学習の充実について

本町において多種多様な生涯学習に関わる活動が活発に行われてことが資料から読み取れ、関係各位のご努力に敬意を表したい。

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表について

教育委員会並びに各学校における教育活動等の評価については、A：90%以上 B：70%～C：40%～ D：40%未満 N：評価不能 という方式で自己評価されている。厳しい視点から真摯に自己点検・自己評価に取り組んでいることが窺え、教育に携わる者の一人として、また一町民として各学校の取組に敬意を表したい。

なお、114 項目に及ぶので学力向上と生活指導、防災教育に特に絞ってコメントする。

基本方向 1 学ぶ力と自立する力の育成について

(1) 「志教育」の推進について

各具体的な取組については昨年度から各学校ともに概ね高い評価となっている。

(2) 教科指導力の向上について

学力向上にとって最も重要なことは日々の授業実践にある。

教師が指導力を向上させ「分かる喜びのある授業」を実践していくことが何より重要である。授業力向上には、教材研究と授業研究が重要である。校内での実践的な授業研究を日々、継続していくことであり、イベント化した研究会だけではなく日常的な環境の中で授業研究を実践していくことを期待したい。

優れた授業実践力があってこそ、家庭学習や少人数指導もより効果を発揮するのである。また、筆者は高校における教職経験が長いが、トップクラスの進学校とされる高校においても生徒から予習、復習の方法が分からないという声をしばしば耳にした。各発達段階に即した予習、復習の方法の指導も併せてお願いしたい。家庭学習ノート等の実践はなされているが、特に中学校では「課題的なもの」だけでなく自学自習できる力の育成を目指していただきたい。

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 重点事項②について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、学校間の授業参観については未実施の学校があった。異なる学校間での授業参観から得られる教育情報は極めて有意義である。指導主事訪問時と限定せずに活発に行われることを期待したい。他の校種、他の教科の教員の授業を参観すること自体が効果の大きい、しかも大きな予算を要しない研修である。

中1ギャップ解消について町の小・中学校をあげて取り組むことを、本町教育の具体的な目標として提案したいが、如何なものだろうか。

(4) 時代の要請に堪えた教育の推進について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、情報関係の指導は重要になっているので、各学校で積極的に実施されることをお願いしたい。

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成について

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 重点事項③について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

スクールカウンセラーの活用については定着しているが、スクールソーシャルワーカーの活用については今後のさらなる研究が重要である。

現在の中学生や小学校中・高学年の生徒は、東日本大震災後の混乱期に乳幼児期を過ごしている。たとえ愛情豊かな保護者の下であっても、避難所の厳しい生活やその後の生活の建て直しの中で、十分な愛護を受けられなかったこともあり得る。そのことは非認知能力の発達に大きなマイナスとなっている可能性が考えられる。いじめ問題や不登校などの背景になる場合もあるので、特に留意されたい。

* 非認知能力：目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など

また、近年大きな問題として取り上げられている「発達障がい」については十分に留意していく必要がある。「発達障がい」傾向の生徒は様々なことに「こだわり」が強い場合が多いが、教師の側のちょっとした工夫や気遣いで、児童生徒のイライラや違和感を大きく解消することができて、その分授業への集中度を増すことができる。

以下は筆者の勤務校で工夫した実践事例である。

- ① 黒板の端に本時の流れを板書して、「見通し」を持たせる。
 - ② 板書で使用するチョークの色を全教科、全教師で統一する。白を基本として重要項目は黄色を使用するなど
 - ③ 生徒へ伝えたい情報は可能な限り「可視化」する。
お便りや学級通信などのフォーマットを統一する。
掲示物の書式、掲示場所なども統一する。
 - ④ 生徒への指示事項は口頭だけでなく、特に複雑な指示は避け、可視化する。
- (2) **健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 重点事項④**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (3) **食に関心を持ち、元気な子どもの育成について**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、昼食まで何も食べないで授業を受けている生徒が多いことには驚かされた。改善への努力を期待する。
- (4) **心身の健康を保つ学校保健の充実について**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、肥満率、虫歯の保有率が高いようである。家庭と十分に連携して改善に期待する。

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくりについて

- (1) **開かれた学校づくりの推進について**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (2) **学習環境の整備充実 重点事項⑤**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (3) **教職員を支える環境づくりの推進について**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、教職員の多忙化解消については更なる努力と工夫を期待する。大きな課題である。

基本方向4 家庭・地域・学校が協同して子どもを育てる環境づくりについて

- (1) **親の「学び」と「子育て」を支える環境づくりについて**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (2) **地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり 重点事項⑥**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (3) **子どもたちの体験活動の推進 重点事項⑦**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (4) **家庭教育の充実について**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

基本方向5 伝統と文化の尊重と国際理解を育む教育の推進について

- (1) **伝統・文化の尊重について**
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

(2) 国際理解を育む教育 重点事項⑧

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進について

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

(2) 文化財の保護と活用について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 重点事項⑨

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚について

(1) 防災教育の推進、充実 重点事項⑩

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、被災地の学校として防災教育の先進地となるべく更なる努力をお願いしたい。

さらに、今年の台風19号の災害の状況を考慮すると災害への対処については更なる点検、研究をお願いしたい。さらに従来は発生件数の少ない災害、例えば「竜巻注意報」が本町においても発令されることが多くなっているが、学校としての対処マニュアルは十分であろうか。ガラスを多用した学校建築は竜巻など突風型災害には脆弱である。また、本県は地震・津波対策は進んだが、他の災害への対応は全般的に遅れているという指摘がある。点検と準備を強くお願いしたい。学校管理下の児童生徒を守ることは学校の責務である。

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

災害時には学校が果たすべき役割は極めて大きいことを再認識して取り組んで頂きたい。

(3) 震災遺構の活用について

被災地として防災教育の先進地となるべく更なる努力をお願いしたい。

尚綱学院大学

学長補佐（高大接続担当）

教育課程部門 特任教授

元仙台市立仙台高等学校長

渡邊 典男

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。